講　義　概　要

2024

【講義概要（シラバス）について】

講義概要（シラバス）は、今年度開設される科目について、その GIO（一般教育目標）や SBO（行動目標）、授業概要、授業計画、開設時期、単位数などを予め記載しています。科目は、作業療法士国家試験受験資格を取得するために国が定めている科目と本校独自に開設する科目で構成されています。

本書を活用し、積極的な事前・事後の学修を行うよう心がけてください。また、各科目の初回授業では、本書をもとに担当教員が授業展開等について説明をすることがありますので、初回授業時には必ず持参ください。

講　義　概　要

作業療法学科昼間部　第１学年

2024

目　次

作業療法学科昼間部　第１学年

キリスト教概論（川上）…… 53
行動科学（西）…… 54
医療情報処理演習（野村）…… 55
医療倫理学（金谷）…… 56
医学用語（林）…… 57
対人援助論（戸田）…… 58
解剖学Ⅰ（町田）…… 59
解剖学Ⅱ（町田）…… 60
生理学Ⅰ（小平）…… 61
生理学Ⅱ（小平）…… 62
運動学Ⅰ（中村）…… 63
運動学Ⅱ（中村・山田）…… 64
人間発達学（阿部）…… 65
病理学概論（関貴行）…… 66
内科学（浦山）…… 67
整形外科学（黒木・木下）…… 68
小児科学（関野）…… 69
予防・健康管理学（黒田）…… 70
老年医学（浦山）…… 71
臨床心理学（西）…… 72
リハビリテーション概論（眞々部）…… 73
作業療法概論（野村）…… 74
基礎作業学（浦田）…… 75
基礎作業学実習Ⅰ（野村）…… 76
基礎作業学演習（林）…… 77
作業療法評価学概論（林）…… 78
身体機能評価学（正村）…… 79
精神機能評価学（中込）…… 80
発達過程評価学（野村）…… 81
臨床見学（金谷　他・専任教員）…… 82
地域臨床見学（金谷　他・専任教員）…… 83
総合統合演習Ⅰ（金谷）…… 84

基礎分野	キリスト教概論	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	川上善子

GIO（一般教育目標）
彰栄学園の建学精神を理解し、本校学生としての自覚を深める。キリスト教及び宗教の基礎的知識を得る。
宗教的なアプローチから自分自身と社会、また世界を知る。歴史や文化、芸術におけるキリスト教の役割を知る。

SBO（行動目標）
本学は、アメリカ・バプテスト・ミッションから派遣されたジュネヴィーヴ・タッピング婦人宣教師がキリスト教に基づいて創設した学校です。
「祈り」「悔い改め」「奉仕」「隣人愛」などといった、キリスト教が大切にしてきた価値観と教養を持った行動ができるよう努める。

授業概要
この授業はキリスト教に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。キリスト教は仏教、イスラム教と共に世界三大宗教のひとつであり、長い歴史の中で数えきれないほどの人々の心を潤し、満たし、勇気づけ、真実の愛の喜びに導いてきました。この授業を通して、豊かな人生観、世界観、洞察力を養い、21世紀を担うに相応しい教養を身につけましょう。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	授業の概要、授業の進め方、チャペルアワー・建学の精神（彰栄学園の歩み）	学生便覧並びにシラバスを読んでおくこと
2	宗教の基礎知識・キリスト信仰の基礎知識・使徒信条とカルト	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
3	十戒と主の祈り	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
4	旧約聖書の世界①　創世記～ルツ記	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
5	旧約聖書の世界②　サムエル記、列王記、歴代誌	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
6	旧約聖書の世界③　預言者たち	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
7	新約聖書の世界①　福音書　イエス・キリストの誕生と活動	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
8	新約聖書の世界②　福音書　イエス・キリストの十字架と復活　使徒言行録　弟子達の活動	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
9	新約聖書の世界③　書簡と黙示録　女性たち	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
10	旧約聖書の世界④　ヨブ記　詩編その他	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
11	キリスト教会の歴史①古代から中世	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
12	キリスト教会の歴史②近現代	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
13	日本の教会の歴史　キリシタンから現代	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
14	教会暦（行事）と諸教派	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。
15	信仰者達の足跡	毎回、授業の始めに講義資料を配付します。

使用教科書	『聖書（聖書協会共同訳2018年版）』日本聖書協会。『讃美歌・讃美歌 第二編』日本キリスト教団出版局。毎回講義資料を配布します。
参考図書	必要に応じて紹介します。
単位認定の方法及び基準	出席及び講義への取り組みを総合的に判断する。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** キリスト教プロテスタント教会の実務に携わる経験を持つ教員が、基礎教養科目として、キリスト教を切り口とした授業を行う。

基礎分野	行動科学	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	西悠香

GIO（一般教育目標）
⑴ 行動の原理もしくは理論や行動変容技術について知識を深め、行動科学とは何かを理解していく
⑵ 医療従事者行動だけでなく、クライアントの行動改善にも効果がある為、行動観察能力や分析力を高めていく事を目的とする

SBO（行動目標）
⑴ 日常生活における人間の行動を予測・解釈できる
⑵ クライアントの行動変容を促す為の諸理論が大まかに説明できる
⑶ 医療従事者の医療行動を改善・向上する為の知識と技術を習得し、日常生活に応用できる

授業概要
行動科学の研究成果が現在のリハビリテーション分野に数多く導入されている事を伝えていく。また、クライアントの行動と医療従事者行動の両方を取り上げながら、講義と演習を通して実践的な援助技術を身に付けていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	行動科学とは	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	自立した自分をつくる① ～時間管理について～	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	自立した自分をつくる② ～健康管理について～	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	自立した自分をつくる③ ～感情管理について～	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	自己実現／私のミッションステートメント	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	自分を変える科学的メソッド　①優柔不断を克服する	配布資料を復習する
7	自分を変える科学的メソッド　②自制心を育てる	配布資料を復習する
8	自分を変える科学的メソッド　③つらい経験から立ち直る	配布資料を復習する
9	健康信念モデル	配布資料を復習し、課題に取り組む
10	自己効力感（セルフ・エフィカシー）	配布資料を復習し、課題に取り組む
11	変化のステージモデル	配布資料を復習し、課題に取り組む
12	計画的行動理論	配布資料を復習し、課題に取り組む
13	ストレスとコーピング	配布資料を復習し、課題に取り組む
14	ソーシャルサポート（社会的支援）	配布資料を復習し、課題に取り組む
15	コントロール所在	配布資料を復習し、課題に取り組む

使用教科書	PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド　第3版　医学書院
参考図書	医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　医歯薬出版
単位認定の方法及び基準	レポート課題提出，授業態度の総合評価（100%）
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 臨床心理士として、医療機関、教育相談および大学における学生相談の現場で、多くの症例を担当してきた。その実務経験に基づいて、観察のポイントや分析方法　その解釈から行動を深く考えられる様、授業を展開していく。

基礎分野	医療情報処理演習	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	演習	野村哲朗

GIO（一般教育目標）
　作業療法士としての業務である書類作成、発表などに必要なWord、Excel、PowerPointの基本的な使用方法と、簡単な情報処理の方法を身につけ、課題発表ができる状態を目指す

SBO（行動目標）
① Wordにて指定された書式文章作成、必要な図形作成ができる
② Excelにて統計情報の抽出、条件にあったセルの抽出などの操作ができる
③ PowerPointにてアニメーションやプレゼンテーションスライドを作成し、発表することができる

授業概要
担当教員を真似て、実際にパソコンを操作することで、その方法を身につけていく
そのため、授業にはMicrosoftのWord、Excel、PowerPointがインストールされているパソコンを持参して使用する

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	Word、Excel、PowerPointの違い、実際にWordを使ってみる	授業内容についての課題
2	画像を使おう、図を描こう１	授業内容についての課題
3	画像を使おう、図を描こう２	授業内容についての課題
4	棒人間図を描く	授業内容についての課題
5	姿勢や動きを観察する	授業内容についての課題
6	決められた書式で書類を作る	授業内容についての課題
7	Excelを使ってみる	授業内容についての課題
8	統計学で分かること	授業内容についての課題
9	分散、度数分布	授業内容についての課題
10	χ2検定と t 検定	授業内容についての課題
11	条件付き書式	授業内容についての課題
12	PowerPointでアニメーションを作る	授業内容についての課題
13	患者の動きをアニメーションで表現する	授業内容についての課題
14	PowerPointスライドを作る	授業内容についての課題
15	作業療法士の成果発表	試験に向けた全体的な復習

使用教科書	「医療者のためのExcel入門　超基礎から医療データ分析まで」第２版
参考図書	必要に応じて提示する
単位認定の方法及び基準	筆記による定期試験80％と授業内の課題20％をもって判定する。なお、提出期限後のレポート提出及び未提出の場合は減点する。【再試験：有】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 　超高齢者が多い特色のある回復期リハビリテーション病棟にて従事してきた。病院や職能団体、その他の活動を通じて得た知識や技術をもとに授業を展開する。症例や論文、発表用のスライド作成、その他パソコンスキルの基礎を身につける授業内容となる。

基礎分野	医療倫理学	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	金谷恵美

GIO（一般教育目標）
医療における倫理を学ぶ基礎として、倫理の概念、倫理学の歴史と代表的な倫理理論の考え方を理解する。それを元に、社会における医療の意味、医療に求められる倫理、望ましい医療者患者関係などについての知識、考え方を用いて考察ができる。

SBO（行動目標）
①医療倫理学の基礎を理解し、その実践技法を身につける。
②「からだ」や「いのち」巡る諸問題について思考し、自分なりの考えをまとめることができる。
③自分なりの考えを他者と表明し合い、ともに討論する姿勢を身につけることができる。

授業概要
人はいかに生きるべきか、現実に対してどのように振舞うことができるか「正しい/善い」ことなのかを考える学問である。授業は教科書や資料を使いながら講義方式で行うが自分なりの考えをまとめ、それを表現することが必要となる。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	人間の尊厳を考える	予習：教科書　第１章
2	倫理4原則について理解する	予習：教科書　第２章
3	患者の自己決定を尊重することの意義について学ぶ	予習：教科書　第３章
4	告知	予習：教科書　第４章
5	告知	予習：教科書　第４章
6	身体拘束と行動コントロールの倫理	予習：教科書　第５章
7	守秘義務とその解除（通報の義務）・個人情報保護	予習：教科書　第６章
8	終末期医療の倫理	予習：教科書　第８章
9	DNARの倫理	予習：教科書　第９章
10	臓器移植をめぐる臨床倫理	配布資料
11	臓器移植をめぐる臨床倫理	配布資料
12	医療者―患者関係	予習：教科書　第１３章
13	Project Based Learning① 自分の意見を述べる準備	適宜指示
14	Project Based Learning② スライドで発表	適宜指示
15	Project Based Learning③ スライドで発表	適宜指示

使用教科書	臨床倫理入門　へるす出版
参考図書	「命は誰のものか　増補改訂版」、「医療・保険専門職の倫理テキスト」医療科学社、「医療倫理学の方法」医学書院、臨床倫理入門Ⅱ　へるす出版
単位認定の方法及び基準	グループワーク発表30%、レポートと振り返りシート50%、プレゼン20%の総合判定。レポートに関してはルーブリックを基に判定する。提出期限後のレポート提出および未提出の場合は減点とする。再試験：無
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法として、医療機関や施設におけるリハビリテーションに携わってきた。多くのクライエントと関り、支援してきた経験談を交え、特徴を理解してもらえるように授業展開していく。

基礎分野	医学用語	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	林一斗

GIO（一般教育目標）
作業療法士がクライエントの健康状態や日常生活・社会生活を説明する際に用いる基本的な用語を理解する。

SBO（行動目標）
①身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害における作業療法処方箋・カルテに記載される内容を読み取ることができる。②作業療法クライエントの生活行為について記載された報告書の内容を読み取ることができる。③作業療法クライエントの心身機能について記載された報告書の内容を読み取ることができる。④作業療法クライエントの生活歴について記載された報告書の内容を読み取ることができる。⑤作業療法士が地域生活移行に向けて提供する報告書（申し送り表）の内容を読み取ることができる。

授業概要
作業療法士が作成した報告書、カルテ等の実際例を用い、作業療法士がクライエントを理解・説明するために必要な用語を広く学び、実際に使いこなせるよう課題を設定する。医学用語、専門用語を理解し、扱うことができるよう授業を展開したい。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション 作業療法士にかかわる用語①	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
2	作業療法士にかかわる用語②	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
3	身体に関する用語①	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
4	身体に関する用語②	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
5	身体に関する用語③	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
6	精神機能に関する用語②	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
7	精神機能に関する用語③	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
8	病気に関する用語①	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
9	病気に関する用語②	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
10	日常生活に関する用語①	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
11	日常生活に関する用語②	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
12	情報の読み取り：入院時の情報	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
13	情報の読み取り：カルテ	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
14	症例報告の読み取り：身体障害領域 高齢期	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。
15	症例報告の読み取り：精神障害領域 発達障害領域	講義中、新たに学んだ用語を列挙し、その意味と用例をノートに記載する。

使用教科書	使用しない：授業時に資料を配布する。※各自ノート（B5サイズ）を1冊準備し持参すること。
参考図書	鎌倉矩子・作業療法の世界―作業療法を知りたい・考えたい人のために（三輪書店）
単位認定の方法及び基準	課題(ノート提出、授業内の小テスト）20%、筆記試験80%で判定する。【再試験の取扱：有　再試験は定期試験と同等範囲の試験問題にて判定する。】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 回復期リハビリテーション病棟での実務経験がある講師が、カルテや各種書類を読み取るのに必要な医学用語を伝える。また、臨床経験を活かして他職種間で円滑なコミュニケーションがとれるよう、専門用語の扱い方を教える。

基礎分野	対人援助論	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	戸田京子

GIO（一般教育目標）
対人援助に必要な自己知覚を知ったうえで、医療職として相応しい態度を身につける。また、信頼関係形成に必要となるコミュニケーション能力についての基礎的な知識を習得する。

SBO（行動目標）
① 対人援助に関わる自己の特徴を知覚できる
② 医療職として相応しい態度が何かを説明できる
③ クライアントを中心とした面接ができ、その場の状況に応じたコミュニケーションを説明できる
④ 他職種へのアポイントがとれる

授業概要
対人援助者として、演習を通しクライエントの立場を理解していくと同時に、自分自身を知るための学習を行う。また、地域臨床見学および臨床見学実習において、医療職として相応しい態度や立ち居振る舞いが出来るように課題を通じてアクティブラーニングを多く取り入れていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	対人援助とは	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	自分を理解する意味：メタ認知	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	自分の性格と傾向	課題を発表できるよう準備
4	自己知覚と対人援助を志した理由：グループ演習	課題を発表できるよう準備
5	自己知覚と対人援助を志した理由：発表	前回授業をもとに発表できるよう準備
6	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	きく力　～聞くと聴く～	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	きく力　～聞くと聞く～：演習	自分のコミュニケーションを振り返る
9	社会人としてのコミュニケーション	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	臨床におけるコミュニケーション	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	関係を築くためのコミュニケーション	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	話題の提供	課題を発表できるよう準備
13	場面によるコミュニケーション	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	面接の実施：面接実技体験	コミュニケーション方法を計画
15	面接実技の振り返り	自己のコミュニケーションを振り返る

使用教科書	「PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド　第3版」
参考図書	「病院で働く人のマナー接遇」「はじめての医療接遇」「人間関係づくりワーク」
単位認定の方法及び基準	定期試験50%　実技30%　授業態度・課題20%による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員として、相談支援に携わってきた経験をもとに支援方法を紹介していく。授業では自身を知り、自ら気づき、臨機応変な対応が出来るよう展開していく。
有	

専門基礎分野	解剖学Ⅰ	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	町田志樹

GIO（一般教育目標）
人体の構造の基本を理解し、正しく述べることができる。作業療法士として必要な運動器の知識を修得し、自分の身体を用いて説明することができる。

SBO（行動目標）
①総論を理解し、解剖学用語を適切に用いることができる。
②主要な運動器の起始停止、神経支配、作用を説明できる。
③自分自身の体を用いて、運動器の構造や役割を説明することができる。

授業概要
本授業では医学の根幹とも言える解剖学の見識を得ることを目標とする。また適宜、理解を深めるための実技を行う。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	総論①	教科書 P18～46を予習・復習すること。
2	上肢の骨・関節	教科書 P48～67を予習・復習すること。
3	上肢の筋①	教科書 P68～76を予習・復習すること。
4	上肢の筋②	教科書 P77～87を予習・復習すること。
5	上肢の筋膜・神経・脈管	教科書 P88～103を予習・復習すること。
6	下肢の骨・関節	教科書 P105～133を予習・復習すること。
7	下肢の筋①	教科書 P134～144を予習・復習すること。
8	下肢の筋②	教科書 P144～155を予習・復習すること。
9	下肢の筋膜・神経・脈管	教科書 P156～170を予習・復習すること。
10	頭頸部・体幹の骨・関節①	教科書 P172～190を予習・復習すること。
11	頭頸部・体幹の骨・関節②	教科書 P191～207を予習・復習すること。
12	頭頸部・体幹の筋①と頸部の筋膜	教科書 P208～218を予習・復習すること。
13	頭頸部・体幹の筋②と体幹の筋膜	教科書 P219～234を予習・復習すること。
14	循環器系①	教科書 P236～246を予習・復習すること。
15	循環器系②	教科書 P247～256を予習・復習すること。

使用教科書	「ＰＴ・ＯＴビジュアルテキスト専門基礎解剖学 第2版」
参考図書	「町田志樹の聴いて覚える起始停止」
単位認定の方法及び基準	定期試験による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 解剖学研究室にて学位（博士）を修得。関連書籍を10冊執筆。
有	

専門基礎分野	解剖学Ⅱ	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	町田志樹

GIO（一般教育目標）
人体各部の構造を正しく理解し、説明することができる。作業療法士として必要な各器官の知識を身に付ける。

SBO（行動目標）
①人体各部の構造を理解する。
②生理学の知識と関連付けて説明することができる。
③構造を図示し、説明することができる。

授業概要
本授業では、医学の根幹とも言える解剖学の見識を得ることを目標とする。また適宜、理解を深めるための実技を行う。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	呼吸器系①	教科書 P258～266を予習・復習すること。
2	呼吸器系②	教科書 P266～274を予習・復習すること。
3	消化器系①	教科書 P276～285を予習・復習すること。
4	消化器系②	教科書 P285～292を予習・復習すること。
5	消化器系③	教科書 P293～302を予習・復習すること。
6	神経系①	教科書 P330～337を予習・復習すること。
7	神経系②	教科書 P338～348を予習・復習すること。
8	神経系③	教科書 P348～355を予習・復習すること。
9	神経系④	教科書 P355～366を予習・復習すること。
10	内分泌系①	教科書 P304～309を予習・復習すること。
11	内分泌系②	教科書 P309～314を予習・復習すること。
12	泌尿器系	教科書 P316～321を予習・復習すること。
13	生殖器系	教科書 P322～328を予習・復習すること。
14	感覚器系①	教科書 P368～378を予習・復習すること。
15	感覚器系②	教科書 P379～382を予習・復習すること。

使用教科書	「ＰＴ・ＯＴビジュアルテキスト専門基礎解剖学 第2版」
参考図書	必要に応じて、資料を配付する。
単位認定の方法及び基準	定期試験による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 解剖学研究室にて学位（博士）を修得。関連書籍を10冊執筆。
有	

専門基礎分野	生理学Ⅰ	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	小平健太郎

GIO（一般教育目標）
生理学とは生命現象あるいは生体機能のしくみを研究対象とする学問である。
その目的としていることは人体の機能を解明することである。　人体の正常な構造と機能を学び、健康維持と疾病回復への過程を理解する。　身体の仕組みのすばらしさを知り、臨床科目への基礎を作る。

SBO（行動目標）
①人体の恒常性を保つ機能を説明できる。②血液の成分と生体内における機能を説明できる。③人体における情報伝達の概要を説明できる。④心臓機能の調節および血圧調節機能を説明できる。⑤呼吸機能と呼吸の調節機能を説明できる。⑥消化器官系の働きと栄養素について説明できる。

授業概要
人体における生体機能を理解するため、人体の恒常性維持機構について図、表を用いて理解しやすいように提示する。
生体内外の環境変化に応じて諸臓器の機能状態を変化させる恒常性の維持について、特に循環系や呼吸器系に対する調節機構について解説する。また、消化吸収系の役割と機能、栄養素の果たす役割について説明する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	生理学とは、人体とその成分、細胞の環境	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	生体の恒常性、体液の組成、容量、浸透圧、pH調節	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	情報伝達機能（神経、内分泌）の概要、自律神経系調節、概日リズム	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	血液の成分と機能、赤血球の機能、貧血の種類	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	白血球、血小板の機能、血漿の成分と機能、止血	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	心臓の構造と血液の循環、刺激伝導系、心臓機能の把握	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	心臓周期	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	血管の構造と物質移動、循環調節	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	呼吸器系の構造、呼息、吸息メカニズムと肺気量分画	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	ガス交換、呼吸機能の調節	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	消化吸収器官の構造・経路と働き、排便調節	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	肝臓、膵臓の働き、消化液の作用、摂食調節	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	栄養素、代謝	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	栄養素、代謝	予定している主題範囲内の教科書を読む
15	まとめ	重要項目について試験対策をたてる

使用教科書	「生理学第3版」（医歯薬出版）
参考図書	「標準理学療法学・作業療法学」（専門基礎分野）、「生理学」（医学書院） 「生理学テキスト」（文光堂）、「標準生理学」（医学書院）
単位認定の方法及び基準	定期試験８０％および小テスト等２０％による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨書検査、鍼灸理療、柔道整復　等）部門で生理学授業を担当した教員が医療従事者に必須な生体機能の調節機構について、パワーポイント等を提示しながら解説する。
有	

専門基礎分野	生理学Ⅱ	昼間部1年次	後期	2単位・15回	講義	小平健太郎

GIO（一般教育目標）
「生理学Ⅰ」で得た身体の仕組みに加え、さらに神経系、内分泌系、免疫系などの生態調節機構について理解し、臨床科目への基礎を作る。

SBO（行動目標）
①腎臓の調節機構について説明できる②体温調節、代謝について説明できる③脳の構成と各部位の機能局在を説明できる。④ホルモンの生理的調節機構について説明できる⑤感覚の分類について説明できる⑥生殖機能と生命の誕生について説明できる。

授業概要
人体における生体機能を理解するため、図、表を用いて理解しやすいように提示する。
生体内外の環境変化に応じて諸臓器の機能状態を変化させる恒常性の維持について、生理学Ⅰの範囲も含めて横断的に説明する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	排泄器官の構造・経路について、腎臓の働き、畜尿・排尿調節	予定している主題範囲内の教科書を読む。
2	体温調節メカニズム	予定している主題範囲内の教科書を読む。
3	ホルモンの概要、作用機構、分泌調節	予定している主題範囲内の教科書を読む。
4	各ホルモンの作用機序	予定している主題範囲内の教科書を読む。
5	細胞の興奮、神経の構造	予定している主題範囲内の教科書を読む。
6	脳の機能局在、高次脳機能	予定している主題範囲内の教科書を読む。
7	自律神経系	予定している主題範囲内の教科書を読む。
8	筋の構造、筋収縮様式、筋線維の組成	予定している主題範囲内の教科書を読む。
9	中枢による運動調節	予定している主題範囲内の教科書を読む。
10	様々な反射調節	予定している主題範囲内の教科書を読む。
11	感覚：感覚の分類と伝達経路	予定している主題範囲内の教科書を読む。
12	感覚：特殊感覚	予定している主題範囲内の教科書を読む。
13	発育発達・加齢、老化	予定している主題範囲内の教科書を読む。
14	病態生理、嗜好品がもたらす影響	生活習慣病の発症機構、嗜好品の成分・作用等について調べる。
15	まとめ	重要項目について試験対策をたてる。

使用教科書	「生理学第3版」（医歯薬出版）
参考図書	「標準理学療法学・作業療法学」（専門基礎分野）、「生理学」（医学書院）「生理学テキスト」（文光堂）、「標準生理学」（医学書院）
単位認定の方法及び基準	定期試験８０％および小テスト等２０％による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨書検査、鍼灸理療、柔道整復　等）部門で生理学授業を担当した教員が医療従事者に必須な生体機能の調節機構について、パワーポイント等を提示しながら解説する。

専門基礎分野	運動学Ⅰ	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	中村浩

GIO（一般教育目標）
・解剖学および生理学の知識に基づいて、正常な身体運動とその仕組みについて理解する。
・作業療法における身体評価の基礎を理解する。

SBO（行動目標）
・力学原理に基づく運動の記述と解釈について説明できる。・骨、関節、筋、神経の構造と機能について説明できる。・骨格筋の筋名、起始・停止、作用について説明できる。・呼吸・循環機能、運動を持続するためのエネルギー供給機構について説明できる。・運動学習、姿勢・歩行の身体動作について基本的な診かたを説明できる。

授業概要
・身体運動は人間の行動を支える基本的活動であり、その仕組みを知ることが作業療法の必修事項である。
・本授業では、身体運動の構造と機能から運動生理学、運動学習、姿勢および歩行について学習する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション、運動学で何を学ぶか	予定しているテキストを読む
2	生体力学の基礎、身体運動と力	身体運動と力について調べる
3	運動器の構造と機能	骨、関節、筋について調べる
4	肩甲骨、肩関節の運動	肩甲骨と肩関節の構造について調べる
5	肘関節、前腕の運動	肘関節、前腕の構造について調べる
6	手関節、手指の運動	手関節、手指の構造について調べる
7	骨盤帯、股関節の運動	骨盤帯、股関節の構造について調べる
8	膝関節の運動	膝関節の構造について調べる
9	足関節、足部の運動	足関節、足部の構造について調べる
10	脊柱・体幹の運動	脊柱・体幹の構造について調べる
11	顔面、頭部の運動	顔面、頭部の構造について調べる
12	呼吸と循環（運動時のエネルギー供給）	運動のためのエネルギー供給について調べる
13	運動学習	運動に関する学習理論について調べる
14	姿勢	立位姿勢アライメント、身体重心について調べる
15	歩行	正常な歩行周期について調べる

使用教科書	① 運動学　15レクチャーシリーズ　理学療法・作業療法テキスト　小島悟編集、中山書店
参考図書	① 基礎運動学　第６版補訂　中村隆一他著、医歯薬出版 ② ＰＴＯＴビジュアルテキスト専門基礎解剖学、町田志樹著、羊土社
単位認定の方法及び基準	定期試験（50%）、授業内課題（50%）より総合的に評価する。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 専門学校、大学、リハビリテーション病院他に勤務経験がある。 各種整形疾患、脳卒中他のリハビリテーション実務経験に基づき、作業療法士を養成するための授業を展開する。

専門基礎分野	運動学Ⅱ	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	中村浩・山田洋一

GIO（一般教育目標）
・身体運動をどのように観察し計測するか　運動学（キネマティクス）および運動力学（キネティクス）より理解する。
・作業療法の実践における身体評価の基本的実習について理解する。

SBO（行動目標）
・骨格系の観察より特に触診（骨棘、筋）について説明できる。
・上下肢、体幹の関節可動域について説明できる。
・身体動作の基本的な分析について説明できる。
・グループワークより、与えられた課題についてまとめる。

授業概要
・本授業では、姿勢や動作をどのように計測し、その表現の仕方について理解する。
・与えられた課題（触診、姿勢・動作・歩行分析）についてグループワークにより学習する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション、運動学Ⅱで学ぶこと	予定しているテキストを読む
2	下肢帯および下肢の機能解剖	下肢の骨、筋の解剖について調べる
3	下肢帯および下肢の関節運動	下肢の関節運動について調べる
4	上肢帯および下肢の機能解剖	上肢の骨、筋の解剖について調べる
5	上肢帯および上肢の関節運動（1）	肩甲帯と肩関節の運動について調べる
6	上肢帯および上肢の関節運動（2）	肘と手・手指関節の運動について調べる
7	頭頚部・体幹の機能解剖	頭頚部・体幹の骨、筋の解剖について調べる
8	脊柱・体幹の関節運動	脊柱の運動と可動域について調べる
9	課題レポート（1）の総括	上下肢の触診とROM測定についてまとめる
10	姿勢（1）立位姿勢アライメントの評価	立位アライメントの配列について理解する
11	姿勢（2）立ち上がり動作の評価	立ち上がりの動作区分について理解する
12	歩行（1）正常歩行と歩行周期	歩行空間および時間パラメータについて理解する
13	歩行（2）正常歩行における関節角度変化	二重膝作用について理解する
14	課題レポート（2）姿勢の総括	姿勢のまとめについて理解する
15	課題レポート（2）歩行の総括	歩行のまとめについて理解する

使用教科書	①運動学実習　15レクチャーシリーズ　理学療法・作業療法テキスト　小島悟編集、中山書店
参考図書	①運動学　15レクチャーシリーズ　理学療法・作業療法テキスト　小島悟編集、中山書店 ②PTOTビジュアルテキスト専門基礎解剖学、町田志樹著、羊土社 ③クリニカルマッサージ　ひと目でわかる筋　解剖学
単位認定の方法及び基準	授業内課題（20%）、課題レポートおよび課題発表（80%）より総合的に評価する。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 専門学校、大学、リハビリテーション病院他に勤務経験がある。 各種整形疾患、脳卒中他のリハビリテーション実務経験に基づいて、作業療法士を養成するための授業を展開する。

専門基礎分野	人間発達学	昼間部1年次	後期	2単位・15回	講義	阿部正美

GIO（一般教育目標）
健常者・障害者を含め、ヒトの一生涯を『発達』と捉えて、その特性、各人生周期における発達課題を理解し説明できるようにする。

SBO（行動目標）
①成長と発達の違いを理解する。
②臨床心理学・社会学・産業構造の変化等々学際的な視点を含めて、人間の発達特性について理解を深める。

授業概要
主にE.H.エリクソンの発達理論に沿って、ヒトの各人生周期の発達特性、発達課題を概観する。発達課題に失敗する要因にも触れ、そこから生じる精神病理や現代社会の著しい構造変化がもたらす側面にも言及したい。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	ガイダンス『人間発達学』とは	教科書を概観してくること
2	生涯人間発達学の概念と歴史	教科書を概観してくること
3	乳児期の発達	教科書の01を読んでくる
4	幼児前期の発達	教科書の02を読んでくる
5	幼児後期の発達	教科書の03を読んでくる
6	学童期（児童期）の発達	教科書の04を読んでくる
7	思春期の発達	教科書の05を読んでくる
8	青年期の発達	教科書の06を読んでくる
9	現代における人間発達（1）	配布資料参照
10	成人前期の発達	教科書の07を読んでくる
11	成人中期の発達	教科書の08を読んでくる
12	成熟期の発達	教科書の09を読んでくる
13	成人後期（高齢期）の発達	教科書の10を読んでくる
14	現代における人間発達（2）	配布資料参照
15	全体のまとめ	配布資料参照

使用教科書	服部祥子著「生涯人間発達論」第3版 医学書院
参考図書	必要に応じて資料を配布する。
単位認定の方法及び基準	定期テスト（８０％）、課題提出（２０％）による総合評価。再試験の取扱：有　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 発達の専門病院で長年勤務するとともに、地域支援にも関わり幅広い年代の方に触れてきた。病院や施設での経験に基づいて、人間発達の流れを概観していきたい。

専門基礎分野	病理学概論	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	関責行

GIO（一般教育目標）
人体の正常と異常について正しく理解し、病気の原因と結果（症状・所見）について適切に説明できるようになる。

SBO（行動目標）
①人体を構成する臓器・器官・組織・細胞の構造や機能について正しく理解する。
②病気の原因について幅広く知り、その結果として生じる病気・病態と結び付けて理解する。
③現代社会における「がん」に関する情報を幅広く吸収し、がん治療の発展について具体的に想像する。

授業概要
病理学総論の内容を中心に扱う。解剖学および生理学で学習した内容の復習を導入として行い、その上で病理学的内容を関連付けて講義していく。各回の授業の最初には、前回の講義内容の復習テスト（小テスト）を行う予定である。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	病理学とは・病理検査の実際・病理学の歴史	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	細胞と組織・上皮組織の種類	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	病因（内因と外因）	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	退行性病変	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	進行性病変	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	代謝異常	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	局所循環障害	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	全身循環障害	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	炎症・感染症	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	免疫	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	腫瘍総論①	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	腫瘍総論②	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	腫瘍各論（循環器・呼吸器）	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	腫瘍各論（消化器）	予定している主題範囲内の教科書を読む
15	まとめ	第14回までの講義内容の総復習をする

使用教科書	「シンプル病理学　改定第8版」　南江堂
参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。
単位認定の方法及び基準	定期試験100%による評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか**
無	

専門基礎分野	内科学	昼間部1年次	後期	2単位・15回	講義	浦山修

GIO（一般教育目標）

医は病いそして病む人を治すことを目的としてきた。今日、内科学は病因の追求、適確な（Evidenceに基づいた）診断と治療さらに病む（障害を含む）人のQOLの向上をめざす広範な医学・医療となっている。作業療法を実践する上で必要な内科学の基本的な知識の習得と主要な内科系疾患（神経疾患を除く）の理解を授業目標とする。

SBO（行動目標）

（1）主訴、症候、臨床検査・画像検査の結果から病気の診断に至る過程、
（2）各種疾患の病因、症状と徴候、検査結果、診断と異常状態に対する治療・処置、
（3）病気の予後の改善や合併症の予防等について、それぞれ理解を深め説明することができる。

授業概要

本授業では、解剖学や生理学と関連させながら、代表的内科疾患の診断と治療さらにQOLの向上について解説します。皆さんはオンライン・サイト上の授業資料と教科書で予習を行い、講義に臨み、スライドを視聴します。講義終了後に復習を行い課題と取り組み、解答をサイト経由で提出してください。翌週、サイト上の解答例とコメントを見て、正誤を確認してください。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	診断の進め方：医療面接、カルテ、診察行為、臨床・画像検査等	教科書該当ページ
2	症候学：生命徴候と全身的症状・所見（発熱、ショック、意識障害等）	教科書該当ページ
3	感染症と感染予防対策（新型コロナウイルス感染症とワクチン効果を含む）	教科書該当ページ・関係資料
4	呼吸器系疾患（肺結核を含む）	教科書該当ページ
5	循環器系疾患（先天性心疾患と血管炎を含む）	教科書該当ページ
6	消化器系疾患	教科書該当ページ
7	肝胆膵系疾患（HBVの感染予防対策を含む）	教科書該当ページ
8	血液・造血器系疾患（血漿成分の変化や免疫系の関わりを含む）	教科書該当ページ
9	代謝性疾患：糖尿病、脂質異常症（エネルギー代謝を含む）	教科書該当ページ
10	遺伝子・染色体異常（遺伝形式や家族性がんを含む）	関係資料
11	内分泌系疾患（ホメオスターシス調節を含む）と乳がん	教科書該当ページ・関係資料
12	腎泌尿器系疾患（水・電解質代謝、酸塩基平衡の障害を含む）	教科書該当ページ
13	免疫異常：免疫の基礎、アレルギー疾患、膠原病、免疫不全（AIDSを含む）	教科書該当ページ
14	骨疾患と酸化ストレス	教科書該当ページ・関係資料
15	ストレスの概要と関連する病気	関係資料

使用教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野／内科学　第4版　医学書院
参考図書	理学療法士作業療法士／基礎から学ぶ内科学ノート　第2版　医歯薬出版
単位認定の方法及び基準	毎回の課題への解答（50%）と特別課題（定期試験）（50%）の結果を評価する。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 糖尿病診療に9年及び臨床検査データの分析に6年半従事した。それらの実務経験に基づいて、Evidence-Based Medicineの考え方に則った病態解析や診断の進め方及び治療方針の決定について特に論じたい。

専門基礎分野	整形外科学	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	黒木光・木下修

GIO（一般教育目標）
整形外科の基礎知識を系統的に理解し、習得することを目的とする。作業療法の専門分野を生かすための基礎を学ぶことを目的とする。

SBO（行動目標）
①整形外科疾患の診断の基本的な流れを理解し説明できる。
②作業療法の分野で扱う頻度の多い疾患の病態を理解し、説明できる。
③疾患の特徴的な症状、必要な検査、治療とＯＴとの関わりを理解し説明できる。

授業概要
整形外科疾患の診断、評価、治療について講義する。画像、小テスト、国家試験問題を使用しながら、理解を深める。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	整形外科の概論／評価	次回の予習
2	整形外科の治療（保存療法、手術療法）	次回の予習・前回の復習
3	外傷・骨折総論	次回の予習・前回の復習
4	上肢の骨折	次回の予習・前回の復習
5	下肢の骨折	次回の予習・前回の復習
6	脊椎骨折・脊髄損傷	次回の予習・前回の復習
7	脊椎疾患（頸椎・腰椎）	次回の予習・前回の復習
8	末梢神経疾患・切断	次回の予習・前回の復習
9	変形性関節症	次回の予習・前回の復習
10	脱臼・スポーツ障害	次回の予習・前回の復習
11	炎症性疾患（関節リウマチ／五十肩）	次回の予習・前回の復習
12	骨系統疾患、代謝・内分泌疾患	次回の予習・前回の復習
13	小児疾患／神経筋・筋疾患	次回の予習・前回の復習
14	骨軟部腫瘍／循環障害／壊死性疾患	次回の予習・前回の復習
15	感染性疾患／まとめ	次回の予習・前回の復習

使用教科書	「病気が見えるVol. 11　運動器・整形外科」
参考図書	「標準整形外科学　第11版」
単位認定の方法及び基準	定期試験：100％による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 病院・診療所等で整形外科領域のリハビリテーションの経験を基に、リハビリテーション分野と密接な分野を中心に講義を行う。

専門基礎分野	小児科学	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	関野隆子

GIO（一般教育目標）
小児期は成長・発達の時期であり、身体の諸機能が年齢と共に発達してゆくので、その基礎的な理解の上に、小児期特有の疾患について学び、作業療法士の役割に生かすことができる。

SBO（行動目標）
①小児の成長・発達、生理、保健について理解する
②小児期に特有な先天性・遺伝性疾患又、小児期に多い疾患について理解する
③小児に多い不慮の事故について、予防・応急処置、又虐待について理解を深める

授業概要
小児の成長・発達、生理、保健、疾病について理解を深められるように講義を進める。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	小児科学の概論、小児の成長・発育と発達	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	小児の保健、予防接種、事故予防	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	栄養障害、新生児・未熟児疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	先天異常、染色体異常、遺伝病	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	神経・筋・骨系疾患①	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	神経・筋・骨系疾患②	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	循環器・呼吸器疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	感染症、消化器疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	内分泌系・代謝疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	血液疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	免疫・アレルギー・膠原病	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	腎・泌尿器系・生殖器疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	腫瘍性疾患、心身症、重症心身障害児	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	眼科的・耳鼻科的疾患、虐待	予定している主題範囲内の教科書を読む 虐待について考える
15	応急処置・救急処置　　まとめ	予定している主題範囲内の教科書を読む

使用教科書	標準理学療法学・作業療法学　小児科学第6版
参考図書	必要に応じて、資料を配布する。
単位認定の方法及び基準	定期試験100％による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 公立の総合病院にて、約40年の実務経験がある。その実務経験・知識に基づいて、作業療法士の養成のための授業を展開する

専門基礎分野	予防・健康管理学	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	黒田晴美

GIO（一般教育目標）

超高齢社会の到来と共に、がん・脳卒中・心筋梗塞など、いわゆる生活習慣病が大きな問題となっている。従来、これら疾患は、早期発見・早期治療という二次予防が中心であったが、昨今、病気の発症を未然に防ぐ一次予防が最も重要であるという認識に変化してきた。一次予防を実践するには臨床医学だけでなく基礎医学および社会医学に関する幅広い知識が必要である。

SBO（行動目標）

・個人、家族、集団や組織における健康について理解できる。
・生活習慣と健康との関連について理解できる。
・健康管理の進め方について理解できる。

授業概要

健康とは身体的側面のみではなく、心理的側面、社会面側面を含めてとらえることを理解し、各年代や社会における健康課題と求められる健康管理について学習する。 日常の睡眠、食事、住居環境、運動など健康管理との関係について自らの健康についても考えながら学習する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	健康の概念	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
2	公衆衛生と予防医学の歴史（世界）	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
3	公衆衛生と予防医学の歴史（日本）	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
4	環境と健康	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
5	保健統計指標（静態統計）	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
6	保健統計指標（動態統計）	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
7	生活習慣の現状と対策１	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
8	生活習慣の現状と対策２	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
9	主要疾患の疫学と予防対策１	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
10	主要疾患の疫学と予防対策２	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
11	地域の保険予防システム	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
12	高齢者・成人の健康管理	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
13	母子の健康管理	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
14	学校の健康管理	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。
15	疫学と感染症対策	予習は講義該当箇所の教科書を読んでおくこと、復習は講義内容の確認をすること。

使用教科書	基礎から学ぶ健康管理概論（５版）
参考図書	「テキスト健康科学」　「コメディカルのための専門基礎分野テキスト　公衆衛生学　第３版」
単位認定の方法及び基準	講義への取り組み（出席状況、授業態度等）10%、小テスト　30%、定期試験　60%による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか**
無	

専門基礎分野	老年医学	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	浦山修

GIO（一般教育目標）

わが国の高齢化率（65歳以上の老年人口の総人口に占める割合）は29.1％（2022年）で、その特徴は西欧諸国に比べ急速に高齢化が進んできた点にある。そこで高齢者の健康の保持と適切な保健医療の提供や実施が緊急の課題となっている。そのような状況の中で、高齢（化）社会における作業療法の目的と役割について理解を深めることを目標とする。

SBO（行動目標）

（1）老化（加齢）に伴う生理・運動機能、性差、生殖系、精神心理面などの変化、
（2）高齢者に多い症候と特徴的な疾患、
（3）高齢者の身体活動やリハビリテーションと多職種連携、
（4）高齢者の医療特に緩和医療及びケアについて学習し、各内容を習得する。

授業概要

高齢者は若中年とどのように異なるのかを説明、加齢に伴う心身の変化を知ってください。作業療法の知識・技能をどのように医療や介護に生かしたらよいのかについても解説します。オンライン・サイト上の授業資料と教科書で予習し、講義にてスライドを視聴し、終了後に復習を行って課題と取り組み、解答をサイト経由で提出してください。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	老化とは：老化の機序（プログラム説）、生理的及び病的老化、記憶とは、健康寿命の延伸他	教科書該当ページ
2	加齢変化：生理・感覚・運動・認知機能、自律機能の変化：高血圧・動脈硬化、脂質異常症	教科書該当ページ
3	フレイルとサルコペニア、エネルギー代謝と身体活動、高齢者への医療提供、医療倫理の四原則	教科書該当ページ
4	高齢者の機能評価：認知、栄養状態、必須栄養素、検査値変化、薬物の効果と副作用	教科書該当ページ
5	老年症候群：せん妄、抑うつ、睡眠障害、歩行障害、転倒、便失禁・尿失禁など	教科書該当ページ
6	循環器系：不整脈、高齢者の心筋梗塞の特徴、心不全、心臓リハ、動脈閉塞症	教科書該当ページ
7	呼吸器系：呼吸困難、肺炎特に院内肺炎と誤嚥性肺炎、結核、COPD、肺がんのリスクなど	教科書該当ページ
8	消化器・肝胆膵系：逆流性食道炎、消化器がん、肝炎、がんの予防と対策	教科書該当ページ
9	脳神経系：脳血管障害、認知症、てんかん、身体知	教科書該当ページ
10	内分泌機能と性差、婦人科系と男性生殖器系の病気、加齢とがんの発生、医療の言葉を分かりやすく	教科書該当ページ
11	骨・運動器系：骨代謝のアンバランス、骨粗鬆症、脊椎症、変形性関節症	教科書該当ページ
12	血液・免疫系：各種貧血、血液腫瘍、抗凝固療法、免疫系の加齢変化、高齢者の膠原病	教科書該当ページ
13	感覚器系（皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科）の病気、糖尿病の多発神経障害	教科書該当ページ
14	医療行為と生活行為、生活行為の正当化の条件、侵襲とは、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント	教科書該当ページ・関係資料
15	疼痛と鎮痛の基礎、がん患者の痛み、薬物療法、緩和ケア、ホスピスケア、笑顔の効果	教科書該当ページ

使用教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野／老年学　第5版　医学書院
参考図書	老年医学（系統講義テキスト）　第1版　西村書店
単位認定の方法及び基準	毎回の課題への解答（60％）とレポート（40％）の結果を評価する。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 臨床では糖尿病などの診療に従事した。基礎医学に長くかかわった経験から、老化の生理・生化学的な面についても（例えば記銘力の低下など）より深く掘り下げて解説したい。

専門基礎分野	臨床心理学	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	西悠香

GIO（一般教育目標）
心の成り立ちや、心理学的援助の基礎を学ぶ。要援助者に対し心理学的な観点を持って接し、総合的な理解に役立てることができる。

SBO（行動目標）
①臨床心理学の歴史や概念について理解を深める。
②心理検査や心理療法を体験し、その特徴を知る。
③要援助者の心理的な状態に合わせて適切な助言、指導を行うことができるようになる。
④要援助者の心理的変化に気づき、必要な援助につなげることができるようになる。

授業概要
本授業では、臨床心理学の基礎である心理的問題の成り立ちや分類に加え、心理的援助の流れを学ぶ。また、心理検査や心理療法の一部を実際に体験することで、具体的な心理援助のイメージをつかめるようにする。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	臨床心理学とは何か　その成り立ちと基本理念	教科書を読んでくる
2	心の成り立ち　生物・心理・社会モデル／ライフサイクルと発達	教科書を読んでくる
3	心の問題　おもな心理的障害/おもな神経発達的障害	教科書を読んでくる
4	心理検査を体験してみよう	教科書を読んでくる
5	精神分析的アプローチ	教科書を読んでくる
6	認知行動的アプローチ	教科書を読んでくる
7	ヒューマニスティックアプローチ	教科書を読んでくる
8	心理療法を体験してみよう①	課題レポート
9	心理療法を体験してみよう②	課題レポート
10	心の問題、障害の改善を目指す	教科書を読んでくる
11	おもな心理的障害①	教科書を読んでくる
12	おもな心理的障害②	教科書を読んでくる
13	おもな神経発達的障害	教科書を読んでくる
14	自身のメンタルヘルス対策	配布資料を復習する
15	障害受容の過程	配布資料を復習する

使用教科書	「よくわかる臨床心理学」岩壁茂監修　ナツメ社
参考図書	「おもしろいほどよくわかる！臨床心理学」下山晴彦監修　西東社
単位認定の方法及び基準	期末テストおよびレポート提出（８5%）、授業態度（15%）による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 精神病院や教育機関において、これまで数多くの心理検査および心理療法を担当してきた。授業においては、学生が自由に発言できる雰囲気を大切にし、一緒に「心のケア」について考えていきたい。

専門基礎分野	リハビリテーション概論	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）
リハビリテーションの理念・定義および歴史的背景、現代社会における障害の捉え方を把握するとともに、医学的・教育的・社会的・職業的リハビリテーションの目的・概要と作業療法士の役割を理解する。

SBO（行動目標）
① リハビリテーションの理念・定義を歴史的背景のもと説明できる。② 国際生活機能分類（ICF）に基づき、クライエントの全体像について説明ができる。③ 医学的・教育的・社会的・職業的リハビリテーションの対象と目的を説明できる。④ リハビリテーションチーム：多職種連携の意義を説明できる。⑤ リハビリテーションにおける作業療法士の役割を説明できる。

授業概要
参考図書や文献および新聞記事、動画などから、日常生活のなかで学生が触れることのできるテーマを設定し、グループ討論を取り入れるなどして問題意識を共有できるよう導く。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	コースオリエンテーション「リハビリテーションの理念」	（予習）「人道主義」について
2	リハビリテーションの歴史・理念 / 全人間的回復　障害者権利　共生生活	（予習）リハビリテーションの定義
3	リハビリテーションと障害者の心理 / 障害の受容 / 健康とはなにか	（予習）障害受容について考える
4	リハビリテーションの過程とリハビリテーションの諸段階	（予習）健康について意見をまとめる
5	医学リハビリテーションとチームアプローチ / リハビリテーションの今日的問題	（復習）医学・教育・社会・職業的
6	理学療法士・言語聴覚士の仕事	（復習）急性期・回復期・維持期・予防
7	リハビリテーション医・看護師・ソーシャルワーカー・ケアマネジャーの仕事	配布資料の確認
8	演習：ロールプレイ　多職種連携について① 準備・企画	多職種の業務内容を理解する
9	演習：ロールプレイ　多職種連携について② 発表およびフィードバック	ロールプレイ発表の準備
10	リハビリテーション機器の紹介①	配付資料の確認
11	リハビリテーション機器の紹介②	配付資料の確認
12	リハビリテーション機器の紹介③	配付資料の確認
13	国試問題を解く / 演習：インタビュー　準備・企画	担当教員にアポをとる
14	演習：発表用スライド作成	スライド作成
15	演習：発表	（予習）発表原稿の作成、発表練習

使用教科書	指定しない：適宜資料を配布する
参考図書	①「コ・メディカルのためのリハビリテーション概論：永井書房」②「入門リハビリテーション概論第7版：医歯薬出版」
単位認定の方法及び基準	定期試験70%　授業課題（発表含む）30%による総合評価　発表に参加しなかった者は減点とする 【再試：有　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関、通所系および在宅リハビリテーションに携わってきた。講義では、近い将来、皆さんが作業療法士として身近な社会問題の解決に貢献できるよう幅広い分野から話題を提供していく。

専門分野	作業療法概論	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	野村哲朗

GIO（一般教育目標）
作業療法士を構成する各領域のアウトラインを理解し、作業療法士になるための心構えを持つことで、今後の学業を円滑に、自主性を持って取り組めるようになることを目的とする。

SBO（行動目標）
講義やグループ学習を通して、作業療法の起源から定義を学び、作業療法の枠組みおよび実践を理解する。また作業療法が展開される領域を理解し説明できるようになる。

授業概要
① 教科書及び参考資料による講義が主となる。
② 現在の医療、福祉についての問題を理解できるように講義を行う。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	作業療法の定義と意味	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	作業療法の歴史と原理	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	作業療法に関する予備知識・作業療法の実践現場	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	作業の分析	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	作業の治療的応用	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	作業療法の理論	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	作業療法士に求められる資質と倫理・作業療法士の教育	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	作業療法研究とエビデンス	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	日本の作業療法士協会と役割	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	作業療法の仕組み・治療プログラムの立案とフォローアップ	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	作業療法の実際①身体障害分野における作業療法	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	作業療法の実際②精神障害分野における作業療法	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	作業療法の実際③発達障害分野における作業療法	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	作業療法の実祭④高齢期分野における作業療法	予定している主題範囲内の教科書を読む
15	社会保障制度の理解	予定している主題範囲内の教科書を読む

使用教科書	標準作業療法学専門分野「作業療法学概論」第4版　医学書院
参考図書	①15レクチャー作業療法概論　初版　中山書店　　②作業療法学概論テキスト　初版　南江堂
単位認定の方法及び基準	筆記による定期試験80％と授業の取り組みと課題20％による総合評価をもって判定する。なお、提出期限後の課題提出および未提出の場合は減点する。 【再試験：有】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として医療機関で身体障害・老年期領域のリハビリテーションに携わってきた。「そもそも作業療法ってなに？」ということを講義形式中心に授業展開していく。

専門分野	基礎作業学	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
⑴ 障害を有する対象者の個々の特性に合わせた治療手段として、適切な手工芸が選択・提供出来る様、必要な知識を学び基本的な技術を習得する。更に各手工芸を分析し、運動機能・精神機能に与える影響を考え、段階付け等の枠組み調整が行える様になる。

SBO（行動目標）
⑴ 作業療法の治療と作業（アクティビティ）の関連性を理解する事が出来る
⑵ 籐細工・革細工・マクラメの特徴を述べる事が出来る
⑶ 籐細工・革細工・マクラメの基本的な手順を理解し、作成する事が出来る
⑷ 対象者に合わせて作業（アクティビティ）を選択し、難易度や工程を調整する事が出来る

授業概要
籐細工、革細工、マクラメの基本的な知識・技術を習得。各種目が対象者にとってどの様な治療効果があるのかを体験を通して分析し対象者に合わせた治療法としての作業活用方法を習得する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	概要説明　作業の分類・考え方	配布した資料を読む
2	マクラメ①　概要説明　作成	配布したマクラメの資料を読む
3	マクラメ②　レポート作成　発表	課題作品提出準備
4	籐細工①　概要説明　編み	配布した籐細工の資料を読む
5	籐細工②　編み	配布した籐細工の資料を読む
6	籐細工③　編み　仕上げ	課題作品提出準備
7	作業分析　籐細工について考える	課題レポート準備
8	革細工①　概要説明	配布した革細工の資料を読む
9	革細工②　模様付け（スタンピング技法）	配布した革細工の資料を読む
10	革細工③　染色	配布した革細工の資料を読む
11	革細工④　仕上げ剤　裏側の始末	配布した革細工の資料を読む
12	革細工⑤　穴あけ　かがり	課題作品提出準備
13	作業分析　革細工について考える	課題レポート
14	作品発表、基礎作業学の国家試験について	配布した国家試験の問題を復習する
15	まとめ	

使用教科書	「アクティビティと作業療法」
参考図書	「作業－その治療的応用 改訂第２版」　「作業活動実習マニュアル 第２版」
単位認定の方法及び基準	課題・発表30%（課題提出期限を過ぎた者は減点とする　発表に参加できなかった者は減点とする） 定期試験70%（本試験と同等範囲の再試験あり）の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は、入所・通所サービス・訪問リハビリテーションにおいて、作業（アクティビティ）を用いた治療に携わった経験がある。実務経験に基づいて、作業療法の治療と作業（アクティビティ）の関連が理解できるよう、授業を展開していく。

専門分野	基礎作業学実習Ⅰ	昼間部 1年次	後期	1単位・15回	実習	野村哲朗

GIO（一般教育目標）
作業活動（Activity）を体験しながら構成要素の考え方、治療としてActivityを用いる基礎を身に付ける。

SBO（行動目標）
①作業活動（Activity）に含まれる工程(手順)を説明できる。　②Activityに必要な道具・材料を列挙できる。　③Activityに関連する生理機能、運動機能、認知機能を列挙できる。　④Activityが実施され得る場や環境を列挙できる。　⑤Activityが心身機能に与える影響を工程ごとに考察・説明できる。　⑥Activityで用いる道具の工夫、環境の調整が動作・活動にどのような影響を与えるか考察・説明できる。

授業概要
前半は作業活動（Activity）の体験を行いながら、そのActivityに対してどのような要素があるのかを考え、治療として作業を提供する基礎を学ぶ。後半はActivityを構造化することに慣れるためのレポート課題と発表を行い「作業の意味」を深く考えられる力を養う。※授業内容変更がある場合は連絡をします。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	塗り絵 1	課題配布
2	塗り絵 2	資料配布
3	貼り絵と折り紙 1	課題配布
4	貼り絵と折り紙 1	資料配布
5	絵画 1	課題配布
6	絵画 2	資料配布
7	自分の好きな作業を調べる 1	資料・課題配布
8	自分の好きな作業を調べる 2	課題発表
9	自分の好きな作業を調べる 3	課題発表
10	自分の好きな作業を調べる 4	資料配布
11	模擬症例に対する作業提供 1	資料・課題配布
12	模擬症例に対する作業提供 2	課題発表
13	模擬症例に対する作業提供 3	課題発表
14	模擬症例に対する作業提供 4	資料・課題配布
15	授業のまとめ	資料配布

使用教科書	指定しない。適宜資料配布。
参考図書	基礎作業学で使用したテキスト：標準作業療法学　基礎作業学　/　作業療法学ゴールド・マスターテキスト　作業学
単位認定の方法及び基準	種々の活動への意欲、積極性を観察評価する。各活動の構造、対象者へ与える効果の理解度を資料作成・発表にて判定する。認定基準はルーブリック評価（目標達成度評価表）を用いる。【再試験：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関で身体障害・老年期領域のリハビリテーションに携わってきた。「作業で人は元気になる」ということを一緒に考え学んでいきたい。

専門分野	基礎作業学演習	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	演習	林一斗

GIO（一般教育目標）
作業療法実習生に求められる基本的態度および診療参加型実習における学習方法を理解する。

SBO（行動目標）
①作業療法学生に求められる基本的態度とは何かを列挙し、具体的に説明できる。②作業療法学生に求められる社会的技能とは何かを列挙し、具体的に説明できる。③臨床における個人情報保護（コンプライアンス）について具体的に説明できる。④診療参加型実習の学び方と日々の学習内容について説明できる。⑤臨床実習中の感染対策について具体的に説明できる。⑥自己学習記録を作成できる。

授業概要
臨床実習生として求められる基本的態度について学ぶ。客観的臨床能力試験（OSCE）の流れに沿った課題作成および実技試験を体験し、臨床参加型実習（CCS）の実際をイメージできるよう展開する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション ①臨床実習の手引き　②基本的態度	事前に配布する資料を熟読する
2	実習の記録（デイリーノート）	事前に配布する資料を熟読する
3	①CCSについて　②実習時の見学・模倣・実施のポイント ②臨床思考過程	事前に配布する資料を熟読する
4	①社会人の基本 ②お礼状・メール作成実施、挨拶・電話の仕方	事前に配布する資料を熟読する
5	①医療人としての基本、心構え ②スタンダードプリコーション・手洗い実施実習	事前に配布する資料を熟読する
6	①どのような作業療法士になりたいか？ ②いい実習を過ごすために	事前に配布する資料を熟読する
7	実習攻略ガイド説明①	事前に配布する資料を熟読する
8	実習攻略ガイド②	事前に配布する資料を熟読する
9	①療法士が行う訓練について（見学のポイント） ②専門用語	事前に配布する資料を熟読する
10	アクティビティの特性 （セラプラスト・アクリルコーン・輪投げ・セラバンド等）	事前に配布する資料を熟読する
11	ハラスメント	事前に配布する資料を熟読する
12	車椅子の説明と介助方法（実技）	実技試験の練習を行う
13	車いす操作・自己紹介	実技試験の練習を行う
14	2年生へ向けての実技（合同）	実技試験の練習を行う
15	車いす実技試験	実技試験の練習を行う

使用教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考図書	「作業療法臨床実習マニュアル－指導者と学生のために」「PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド」「PT・OT学生のためのクリニカル・クラークシップ臨床実習ガイド[実習での経験の仕方・学び方」
単位認定の方法及び基準	レポート30%、実技試験70%として総合的に判定する。【再試験の取扱：無　ただし、評価が不十分だった者は、後日行う実技練習に必ず参加すること。】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 回復期リハビリテーション病棟で実務経験がある講師が、実習のポイントや作業療法士としての立ち振舞いを伝える。また、実務経験と実習指導者としての経験を生かし、臨床実習に役立つ技術の演習を行う。

専門分野	作業療法評価学概論	昼間部 1年次	前期	2単位・15回	講義	林一斗

GIO（一般教育目標）
作業療法における各領域の評価の意味、目的、進め方を理解する。

SBO（行動目標）
①作業療法において評価とは何のために行うのかを説明できる
②作業療法において必要な評価項目が列挙できる
③各評価項目について確認するための評価方法を説明できる

授業概要
作業療法における評価とは、何のために、何を、どのように確認していくのか、それを実施できるようになるためにはどのような知識を必要とするのかを学ぶ。この授業では各評価方法を実施できるようになることは目標としない。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション 作業療法における評価	授業内容をふりかえる課題
2	作業療法評価の手順と手段	授業内容をふりかえる課題
3	作業療法評価の理解	授業内容をふりかえる課題
4	面接・観察	授業内容をふりかえる課題
5	情報収集 『その人』を知るために	授業内容をふりかえる課題
6	身体機能の評価	授業内容をふりかえる課題
7	精神機能の評価	授業内容をふりかえる課題
8	高次脳機能の評価	授業内容をふりかえる課題
9	発達過程の評価	授業内容をふりかえる課題
10	高齢期の評価	授業内容をふりかえる課題
11	国際生活機能分類(ICF)	授業内容をふりかえる課題
12	日常生活動作の評価(FIM)	授業内容をふりかえる課題
13	生活行為を評価する 生活行為向上マネジメント(MTDLP)	授業内容をふりかえる課題
14	作業を評価する カナダ作業遂行測定(COPM)、AMPS	授業内容をふりかえる課題
15	作業療法評価の適用	授業内容をふりかえる課題

使用教科書	標準作業療法学「作業療法評価学」　医学書院
参考図書	（作業療法における評価の位置づけなど）標準作業業療法学「作業療法学概論」
単位認定の方法及び基準	定期試験80％、授業内課題及び提出課題20％で判定する。課題の提出がなされない場合、期日に遅れた場合は減点とする。【再試験の取扱：有　再試験は定期試験と同等の範囲から出題する。】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、回復期リハビリテーション病棟に従事してきた経験を活かし、作業療法評価を通して対象者を理解出来るようになることを目指す。また、今後作業療法士になるために何を学ぶ必要があるかを考えてもらう。

専門分野	身体機能評価学	昼間部1年次	後期	2単位・15回	講義	正村好臣

GIO（一般教育目標）

身体領域における評価計画立案のための技能を学ぶ。その導入として、人体のしくみや骨・関節・筋の知識を深めていく。また、代表的な疾患を取りあげ、解剖学・運動学で得た知識を統合させ、何の評価が必要となるのかを考え、自ら学習していく習慣づくりを目的とする。

SBO（行動目標）

① 解剖学・運動学に興味を持つことが出来る　② 人体のしくみを大まかに理解し説明出来る
③ 何事にも疑問を持ち、調べ学習する習慣を持つ　④ 身体領域で必要となる評価項目をあげることが出来る

授業概要

解剖学・運動学の知識を統合させ、人体のしくみや骨・関節・筋の知識を深めていく。身体に触れながら確認するといった行動学習を中心に行い、学生が主体的に疑問を持ち学習していくことが出来るよう授業展開していく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	脳血管障害と高次脳機能障害	脳血管障害と高次脳機能障害の病態像を調べる
2	評価の種類	脳血管障害の検査項目を調べる
3	評価について	脳血管障害の評価の流れを調べる
4	ICF作成	ICFについて復習
5	内臓について	内臓の位置関係や働きについて
6	肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨の模写（前面のみ）	範囲内の骨が描けるよう準備する
7	骨盤・大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨・足根骨（前面のみ）	範囲内の骨が描けるよう準備する
8	上肢の筋と運動方向、触診（肩甲骨を止めて動かす）（下角・肩甲棘・肩峰・上腕骨外側・内側上顆・豆状骨）	範囲内の筋と運動方向について復習
9	上肢確認テスト（2年生へ向けてのＲＯＭ計測）	範囲内の筋と運動方向について復習
10	下肢の筋と運動方向、触診（腸骨稜・ASIS・PSIS・大転子・大腿骨内・外上顆・膝蓋骨・内果・外果）	範囲内の筋と運動方向について復習
11	下肢確認テスト+杖の合わせ方（2年生へ向けてのROM計測）	範囲内の筋と運動方向について復習
12	姿勢評価①：背臥位、座位、立位（良肢位・不良肢位評価）	解剖学・運動学の専門用語を用いた動作分析
13	動作分析①：起居動作	解剖学・運動学の専門用語を用いた動作分析
14	動作分析②：リーチ動作	解剖学・運動学の専門用語を用いた動作分析
15	次年度の学習につなげるための代表的な評価技術体験、総まとめ	SBO達成度の確認

使用教科書	「運動療法のための機能解剖学的触診技術改定第2版 上肢 動画プラス」「運動療法のための機能解剖学的触診技術改定第2版 下肢・体幹 動画プラス」
参考図書	「 PTOTビジュアルテキスト専門基礎解剖学第1版 」「 基礎運動学第6版補訂 」「町田志樹の聴いて覚える起始停止」 「身体機能作業療法学　第4版」
単位認定の方法及び基準	定期試験80％および授業態度、課題20％による総合評価 【再試験の取り扱い：有り】　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	精神機能評価学	昼間部 1年次	後期	2単位・15回	講義	中込慶太

GIO（一般教育目標）
精神科作業療法に対する理念・概念などを幅広く理解することを目的とする。対象者を取り巻く全体像を把握するために、各種評価を習得することを目指す。

SBO（行動目標）
①精神障害及び精神科作業療法について説明できる。
②精神障害に対する作業療法を学び、基本的な評価を習得することができる。
③評価の目的と概念を知ることができる。
④対象者の言動や行動からその要因について複数の仮設をたてることができる。

授業概要
精神障害分野を広く理解し、基本的な概念や視点を学んでいく。各種、評価バッテリーやグループワークを通して一連の流れを把握する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	精神障害について	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	精神保健医療福祉について	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	精神機能作業療法の歴史について	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	精神機能作業療法の基本的視点について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	精神機能作業療法における情報収集を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	精神機能作業療法における観察法と面接法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	精神機能作業療法における観察法と面接法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	集団における評価を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	集団における評価を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	代表的な精神疾患・障害と症状	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	精神症状の評価	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	精神機能作業療法における検査法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	精神機能作業療法における検査法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	精神機能作業療法における検査法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
15	精神作業療法のまとめ	全体の振り返りをする

使用教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト「精神障害作業療法学」第３版　メディカルビュー
参考図書	適宜、資料配布する。
単位認定の方法及び基準	課題10%　小テスト　20%　定期試験70%　の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 総合分野・領域における作業療法の経験を踏まえ、作業療法士としての基本を学んでいく。同時に臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	発達過程評価学	昼間部1年次	後期	2単位・15回	講義	野村哲朗

GIO（一般教育目標）
発達障害の概念・歴史を学ぶとともに、正常発達を理解し発達障害を学ぶ上での基礎とする

SBO（行動目標）
①発達障害の概念・歴史を知る
②正常発達において、主に運動発達について理解を深める
③正常発達において、知的発達・社会的発達その他の発達について理解を深める

授業概要
本授業では、発達障害の概念・歴史を主に講義を通して学ぶとともに、正常発達については、講義だけでなく実技演習、授業内見学実習を通して学ぶことで理解を深めることを狙いとする。また、画像や動画も使用し多角的に学習する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	正常発達について	基礎科目の復習
2	脳の構造、機能について	配布資料を読む
3	脳の構造、機能について	配布資料を読む
4	中枢神経、末梢神経について	配布資料を読む
5	反射（原始反射、姿勢反応）について	配布資料を読む
6	反射（原始反射、姿勢反応）について	配布資料を読む
7	授業内施設見学実習	レポート作成　発表の準備発表
8	授業内施設見学実習レポート発表	レポート作成　発表の準備発表
9	脳性麻痺について	配布資料を読む
10	脳性麻痺について	配布資料を読む
11	筋ジストロフィー	配布資料を読む
12	自閉症スペクトラム障害	配布資料を読む
13	ADHD	配布資料を読む
14	学習障害、知的障害	配布資料を読む
15	まとめ、自己学習	配布資料を読む

使用教科書	適宜、資料配布する。
参考図書	適宜、資料配布する。
単位認定の方法及び基準	本科目は、筆記による定期試験70%、確認小テスト20%、課題10%の総合判定とする。なお、提出期限後の課題および未提出の場合は減点する。【再試験：有】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 無	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 高齢期の対象者が多い回復期リハビリテーション病院での実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	臨床見学	昼間部 1年次	後期	1単位・5日	実習	金谷恵美　他・専任教員

GIO（一般教育目標）
作業療法士が実施する評価・治療・指導・援助とその過程を理解する。
作業療法実習生として求められる基本的態度を習得する。

SBO（行動目標）
①指導者のもと実習施設の概要を把握する　②指導者が行う作業療法を見学し内容を理解する　③指導者のもとクライエント理解に必要な情報は何かを把握する ④指導者に対し、適宜報告・連絡・相談、確認ができる　⑤指導者のもとスタッフと適切な人間関係を構築することができる　⑥指導者のもとクライエントや家族と良好な関係を構築することができる　⑦実習施設における規則、指導者との約束を守ることができる

授業概要
臨床実習は、作業療法士が勤務するさまざまな現場に出向き、作業療法士が実際に行う作業療法の場面に参加（見学・模倣・実施）することにより、専門職として求められる知識・技術・態度を主体的に学ぶ過程である。臨床見学実習では、医療従事者としての基本的態度を重要視するとともに、CCS型実習における基本的な学習方法の習得を目指していきたい。

授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
臨床見学実習は、 ①実習前評価（実技試験・課題提出・書類準備） ②臨床実習（実習施設・指導者が作成するスケジュールに基づく実習内容） ③実習後評価（実習後振り返り・実習報告会）により構成される。 ◆詳細は、別途配布する臨床実習の手引きに記載する。	

単位認定の方法及び基準	臨床実習の単位認定は、学内で実施する実習前・後評価および臨床実習指導者による評価により総合的に判断し学内にて決定する。 内訳は①実習前評価20％②臨床実習60％③実習後評価20％とする

専門分野	地域臨床見学	昼間部 1年次	通年	1単位・5日	実習	金谷恵美　他・専任教員

GIO（一般教育目標）
地域における作業療法士の役割と各施設における多職種連携について把握する。
作業療法実習生として求められる基本的態度を習得する。

SBO（行動目標）
①指導者のもと施設の概要を把握する　②指導者のもと作業療法士の業務内容と役割を把握する　③指導者のもと作業療法と関連する部門・職種を把握する　④挨拶、言葉遣いが丁寧にできる ⑤場に合わせた態度をとることができる　⑥清潔感のある身だしなみができる　⑦不快感を与えない表情で接することができる　⑧遅刻、欠席や提出物の遅れはなく、時間を守ることができる　⑨実習施設の規則を遵守できる

授業概要
地域臨床見学では、作業療法業務および作業療法士に関連する部門・職種に関心を持ち多職種連携の実際に触れ将来の就労イメージがより明確化されることを期待する

授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
地域臨床見学実習は、 ①実習前評価（課題提出・書類準備） ②臨床実習（実習施設・指導者が作成するスケジュールに基づく実習内容） ③実習後評価（実習報告会）により構成される。 ◆詳細は、別途配布する臨床実習の手引きに記載する。	

単位認定の方法及び基準	臨床実習の単位認定は、学内で実施する実習前・後評価および臨床実習指導者による評価により総合的に判断し学内にて決定する。 内訳は①実習前評価20%②臨床実習60%③実習後評価20%とする

専門分野	総合統合演習Ⅰ	昼間部 1年次	通年	4単位・30回	演習	金谷恵美

GIO（一般教育目標）
作業療法士に求められる知識・技術・態度とは何か理解し、それらを習得するための様々な学習方法を身につける。

SBO（行動目標）
①作業療法の教育課程を説明できる。②自ら計画して自己学習を進めることができる。③作業療法学生に求められる種々の学習方法を説明できる。④教員が指示した学習課題を規定通りに作成し提出できる。⑤学習の成果を報告するための相談・準備を進めることができる。⑥学習の成果を他学生へ報告できる。

授業概要
臨床実習、国家試験対策を見据え、作業療法学生に必要な学習習慣をより早期に身につけられるよう授業をすすめる。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション /キーワードの学習方法	講義概要
2	カリキュラムマップの作成①：教育課程を把握する	講義概要
3	カリキュラムマップの作成②：国家試験出題科目（KJ法による理解・言語化）	講義概要
4	実習に向けて：基本的態度について	随時指示を出す
5	実習に向けて：事前準備	随時指示を出す
6	作業療法士に求められる医学的知識①：筋カード作成　解剖学の学習方法	随時指示を出す
7	作業療法士に求められる医学的知識②：筋カード作成　解剖学の学習方法	随時指示を出す
8	作業療法士に求められる医学的知識③：筋カード作成　解剖学の学習方法	随時指示を出す
9	経験レポート作成①：文章の基本	教科書　第1章
10	経験レポート作成②：文章の基本	教科書　第１章
11	経験レポート作成③：書く意義と書く前の3段階	教科書　第２章
12	経験レポート作成④：書く意義と書く前の3段階	教科書　第２章
13	経験レポート作成⑤：論理的な読点の使い方	教科書　第３章
14	経験レポート作成⑥：論理的な読点の使い方	教科書　第３章
15	まとめ	予定している範囲の教科書を読む

使用教科書	「PT・OT国家試験共通問題頻出キーワード1800」南江堂　「PT・OT学生の文章力を育てる！レポートの書き方ー正しく学ぼう「書く基本」「文章の組み立て方」」金芳堂
参考図書	講義概要　解剖学　羊土社
単位認定の方法及び基準	理解度チェック小テスト30％、レポート課題50％、グループワーク発表20％などによる総合判定とする。なお、提出期限後のレポート提出および未提出の場合は減点とする。再試験の取扱：無
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法として、医療機関や施設におけるリハビリテーションに携わってきました。多くのクライエントと関り、支援してきた経験談を交え、特徴を理解してもらえるように授業展開していく。

専門分野	総合統合演習Ⅰ	昼間部1年次	通年	4単位・30回	演習	金谷恵美

GIO（一般教育目標）
作業療法士に求められる知識・技術・態度とは何か理解し、それらを習得するための様々な学習方法を身につける

SBO（行動目標）
①教員から提示された課題・資料をもとに自己学習テーマ（疑問・課題）を設定できる。②疑問・課題を解決するために必要な資料を検索できる。③自ら選択した複数の資料を読み取り自己学習記録を作成できる。④自己学習の経験を振り返り、新たに獲得した知識・技術や改めて確認できた知識・技術を言語化できる。⑤自己学習の経験を振り返り、今後の学習課題・目標を説明できる。⑥学習の成果を他学生へ報告できる。

授業概要
自律学習（学習者自身の主体的な学び）能力を図り医療専門職としての学習態度・問題解決能力を習得できるよう課題を設定する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
16	地域見学実習に向けて：基本的態度について	事前に配布する資料を熟読する
17	地域見学実習に向けて：基本的態度について	事前に配布する資料を熟読する
18	経験レポート作成⑨：良いレポートの条件	教科書　第4章
19	経験レポート作成⑩：良いレポートの条件	教科書　第4章
20	経験レポート作成⑪：良いレポートの条件	随時指示を出す
21	経験レポート作成⑫：良いレポートの条件	随時指示を出す
22	社会人に求められる問題解決能力①：身近な社会問題に対する自己学習	随時指示を出す
23	社会人に求められる問題解決能力②：自己学習記録の作成	随時指示を出す
24	社会人に求められる問題解決能力③：自己学習報告会	随時指示を出す
25	基礎医学科目のグループ学習①：自己学習	随時指示を出す
26	基礎医学科目のグループ学習②：自己学習	随時指示を出す
27	基礎医学科目のグループ学習③：シェア学習	随時指示を出す
28	基礎医学科目のグループ学習④：シェア学習	随時指示を出す
29	基礎医学科目のグループ学習⑤：シェア学習・振り返り	随時指示を出す
30	総括	

使用教科書	「PT・OT国家試験共通問題頻出キーワード1800」南江堂　「PT・OT学生の文章力を育てる！レポートの書き方ー正しく学ぼう「書く基本」「文章の組み立て方」」金芳堂 学生便覧
参考図書	適宜紹介する
単位認定の方法及び基準	理解度チェック小テスト30%、レポート課題とレポート50%、プレゼンテーション20%などによる総合判定とする。なお、提出期限後のレポート提出および未提出の場合は減点とする。【再試験の取扱：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法として、医療機関や施設におけるリハビリテーションに携わってきました。多くのクライエントと関り、支援してきた経験談を交え、特徴を理解してもらえるように授業展開していく。

講　義　概　要

作業療法学科昼間部　第２学年

2024

目　次

作業療法学科昼間部　第２学年

解剖学実習（木ノ瀬）…… 89
生理学実習（小平）…… 91
運動学実習（山田）…… 92
リハビリテーション医学（中込）…… 93
神経内科学（岡田尚志郎）…… 94
精神医学（石渡香住）…… 95
地域リハビリテーション学（浦田）…… 96
基礎作業学実習Ⅱ（林）…… 97
作業療法管理学（林）…… 98
高齢期評価学（正村）…… 99
高次脳機能評価学（眞々部）…… 100
生活活動評価学（浦田）…… 101
作業療法評価学実習Ⅰ（正村）…… 102
作業療法評価学実習Ⅱ（眞々部）…… 106
作業療法評価学演習（浦田）…… 108
作業治療学概論（浦田）…… 110
身体機能作業治療学（眞々部）…… 111
精神機能作業治療学（中込）…… 112
発達過程作業治療学（中込）…… 113
高齢期作業治療学（眞々部）…… 114
高次脳機能作業治療学（野村）…… 115
生活適応学（浦田）…… 116
身体機能作業治療学実習Ⅰ（眞々部）…… 117
精神機能作業治療学実習Ⅰ（土居）…… 118
発達過程作業治療学実習Ⅰ（中込）…… 119
高齢期作業治療学実習Ⅰ（浦田）…… 120
高次脳機能作業治療学実習Ⅰ（眞々部）…… 121
生活適応学実習（野村）…… 122
臨床技術演習Ⅰ（林）…… 124
臨床評価実習（金谷　他・専任教員）…… 125

専門基礎分野	解剖学実習	昼間部 2年次	前期	2単位・30回	実習	木ノ瀬翔太

GIO（一般教育目標）
人体に対してより理解を深め、考えながら触れることができ、作業療法の技術を向上できるようになる。

SBO（行動目標）
①体表から骨や筋等の大体の位置や形を理解できる。
②実際に触知することができる。
③触知までの手順を人に説明することができる。

授業概要
本授業では、解剖学の知識を生かして、実際の体表から骨や筋等を触れ、その特徴について考える。
座学と実技を組み合わせて学習を行う。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	触察の基本、手順	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	肩甲骨	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	肩甲帯の筋①	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	肩甲帯の筋②	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	肩甲帯の筋③	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	肩甲帯の筋④	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	肩甲帯の復習	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	脊柱、骨盤の触察	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	下肢の筋①	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	下肢の筋②	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	下肢の筋③	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	下肢の筋④	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	下肢の復習	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	上腕の筋①	予定している主題範囲内の教科書を読む
15	小テスト	テスト範囲の復習

使用教科書	町田志樹の聴いて覚える起始停止
参考図書	PTOTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学
単位認定の方法及び基準	実技試験80％、出席5％、授業態度15％による総合評価。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 解剖学の研究室にて研究を行い、また臨床では院内、訪問リハビリテーションに携わった経験がある。研究によって得た知識や患者に触れて培った実務経験を元に臨床で活躍できる作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門基礎分野	解剖学実習	昼間部 2年次	前期	2単位・30回	実習	木ノ瀬翔太

GIO（一般教育目標）
人体に対してより理解を深め、考えながら触れることができ、作業療法の技術を向上できるようになる。

SBO（行動目標）
①体表から骨や筋等の大体の位置や形を理解できる。
②実際に触知することができる。
③触知までの手順を人に説明することができる。

授業概要
本授業では、解剖学の知識を生かして、実際の体表から骨や筋等を触れ、その特徴について考える。
座学と実技を組み合わせて学習を行う。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
16	上腕の筋②	予定している主題範囲内の教科書を読む
17	上腕の筋③	予定している主題範囲内の教科書を読む
18	上腕の筋④	予定している主題範囲内の教科書を読む
19	上腕の復習	上腕の復習
20	前腕の筋①	予定している主題範囲内の教科書を読む
21	前腕の筋②	予定している主題範囲内の教科書を読む
22	前腕の筋③	予定している主題範囲内の教科書を読む
23	前腕の筋④	予定している主題範囲内の教科書を読む
24	前腕の筋⑤	頭部・頸部・体幹の復習
25	前腕の筋⑥	予定している主題範囲内の教科書を読む
26	前腕の筋⑦	予定している主題範囲内の教科書を読む
27	前腕の筋⑧	予定している主題範囲内の教科書を読む
28	全体の復習	予定している主題範囲内の教科書を読む
29	実技テスト	今までの全ての復習
30	実技テスト	今までの全ての復習

使用教科書	町田志樹の聴いて覚える起始停止
参考図書	PTOTビジュアルテキスト専門基礎 解剖学
単位認定の方法及び基準	定期試験80%、出席5%、授業態度15%による総合評価。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 解剖学の研究室にて研究を行い、また臨床では院内、訪問リハビリテーションに携わった経験がある。研究によって得た知識や患者に触れて培った実務経験を元に臨床で活躍できる作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門基礎分野	生理学実習	昼間部 2年次	前期	1単位・15回	実習	小平健太郎

GIO（一般教育目標）
人体の機能について、測定を通して観察する。「生理学」で得た身体の仕組みについての知識を、実習を通して検証する。科学的な考え方、研究方法を学ぶ。臨床科目への基礎を作る。

SBO（行動目標）
①血圧の測定方法を説明、実践できる。部位や測定方法による違いを説明できる。　②心拍数の測定方法を説明、実践できる。運動等による変化について説明できる。　③心電図の測定方法を説明、実践できる。異常波形について説明できる。④呼吸機能の測定方法を説明、実践できる。呼吸機能の異常について説明できる。　⑤運動時の調節作用について測定を用いて説明、実践できる。

授業概要
座学で得た生理学知識を活かして、実際に呼吸機能測定、血圧測定、心電図測定を行う。運動など、体に対する刺激への反応を実習を通して検証する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	イントロダクション、運動時の生体調節-1	1年次で得た生理学知識の確認。
2	運動時の生体調節-2 /体組成の測定方法	予定している主題範囲内の教科書を読む。
3	【実技】 血圧・脈拍・肺気量測定	予定している主題範囲内の教科書を読む。
4	概日リズムについて　/　【実技】ストレッチング	予定している主題範囲内の教科書を読む。
5	ロコモティブシンドロームについて /【実技】簡易体力テスト（ロコモテスト、体力チェック）	予定している主題範囲内の教科書を読む。
6	後期課題についての説明 /【実技】運動に伴う呼吸循環系応答	予定している主題範囲内の教科書を読む。
7	【実技】運動に伴う呼吸循環系応答/総合演習、課題作成	予定している主題範囲内の教科書を読む。
8	【実技】固有受容器に対する刺激と運動の調節/総合演習、課題作成	予定している主題範囲内の教科書を読む。
9	総合演習、課題作成	課題作成に必要な資料を収集しておく、教科書の関連範囲部分を読む。
10	総合演習、課題作成	課題作成に必要な資料を収集しておく、教科書の関連範囲部分を読む。
11	総合演習、課題作成	課題作成に必要な資料を収集しておく、教科書の関連範囲部分を読む。
12	総合演習、課題作成	課題作成に必要な資料を収集しておく、教科書の関連範囲部分を読む。
13	課題発表	課題発表に必要な資料を準備する
14	課題発表	課題発表に必要な資料を準備する
15	総括：様々な刺激に対する身体の適応と測定方法	これまでの講義資料を振り返って読む。

使用教科書	生理学実習NAVI（医歯薬出版）、入門運動生理学　第4版　（杏林書院）
参考図書	「生理学テキスト」（文光堂）、「標準生理学」（医学書院）、「生理学第3版」（医歯薬出版株式会社）
単位認定の方法及び基準	レポート６０％、確認テスト・発表など３０％、小テスト１０％による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨書検査、鍼灸理療、柔道整復　等）部門で生理学授業を担当した教員が医療従事者に必須な生体機能の調節機構について解説する。

専門基礎分野	運動学実習	昼間部 2年次	前期	1単位・15回	実習	山田洋一

GIO（一般教育目標）
・運動学的観点から人の動作を客観的・主観的に分析できるようになる。

SBO（行動目標）
・人体の寸法、動作などを計測し、得られた情報からデータの特徴やデータ間の関係を客観的に分析できるようになる。
・分析に必要な基本的統計手法を利用することができるようになる。
・人の動作を観察して、専門用語を使い記録することができるようになる。

授業概要
・客観的分析に必要な基本的統計手法を学修し、演習・実習を通して活用する。
・人体寸法から、基本的動作、ADL動作を客観的・主観的分析（観察）を行い記録する。
・人の身体や動作を運動学的観点から、多角的に評価する必要性を理解する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	①　オリエンテーション（授業の概要とスケジュール等） ②　データの特性について	
2	①　統計的ものの見方と重要性 ②　授業で利用する統計用語と演習	・統計用語：平均、中央値、四分位、四分位範囲、四分位偏差、箱ひげ図を調べる。
3	①　データの特性を知るための情報とその計算 ②　データ間同士の関係を知るための情報とその計算	・散布図 ・1変数の偏差・平方和・分散・標準偏差 ・2変数の共分散と相関係数
4	①　実習：身長、上肢長、転子果長の計測と記録 ②　演習：計測結果から各変数間の相関関係を調べる	・実習・演習を通して客観的分析を行う
5	①　演習：第4回授業の続き ②　課題提出	・実習・演習を通して客観的分析を行う
6	①　実習：1歩幅（1m）時の転子果長と股関節屈曲角計測 ②　演習：計測結果から各変数間の相関関係を調べる	・実習・演習を通して客観的分析を行う
7	①　演習：第6回授業の続き ②　課題提出	・実習・演習を通して客観的分析を行う
8	①　講義：利き手と非利き手の箸の操作 ②　実習：利き手と非利き手の作業時間計測	・実習・演習を通して客観的分析を行う
9	①　第8回授業の続き ②　課題提出	・実習・演習を通して客観的分析を行う
10	①　講義：上衣を着る（両手と片手動作の比較） ②　実習：実習着を両手と片手着用する時間を計測	・実習・演習を通して客観的分析を行う
11	①　第10回授業の続き ②　課題提出	・実習・演習を通して客観的分析を行う
12	①　講義：観察による分析について ②　実習：利き手と非利き手の箸の使い方を観察する	・観察したものを専門用語を使い記録する
13	①　第12回授業の続き ②　課題「利き手と非利き手の箸の使い方の違いについて」	・観察したものを専門用語を使い記録する
14	①　実習：両手と片手の上衣の着方を観察する ②　演習：観察したものを記録する	・観察したものを専門用語を使い記録する
15	①　第14回授業の続き ②　課題「両手と片手の上衣の着方の違いについて」	・観察したものを専門用語を使い記録する

使用教科書	資料を配布
参考図書	①「15レクチャーシリーズ　理学療法・作業療法ﾃｷｽﾄ　運動学」小島悟編集、中山書店　②同「運動学実習」 ③　統計に関する図書
単位認定の方法及び基準	授業内の提出課題を通して評定を行う。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** ・専門学校、大学、リハビリテーション病院他に勤務経験がある。 ・臨床業務で作業療法士などとの協業経験を通して、作業療法士に必要な資質を授業を通して育成する。 ・演習・実習を通して能動的授業を展開し、問題解決能力を育成する。

専門基礎分野	リハビリテーション医学	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	中込慶太

GIO（一般教育目標）
医学としてのリハビリテーションの適用範囲、それぞれの専門性の理解し、リハビリテーションの目的と基本的な知識を理解する。

SBO（行動目標）
①リハビリテーション医学の概念、リハビリテーションの概略について説明できる。
②リハビリテーションの主な対象疾患を説明できる。
③代表的疾患のリハビリテーションについてその概要を説明できる。

授業概要
リハビリテーション医学ではさまざまな病態を幅広く理解し、急性期から維持期、さらに予防にまで及ぶ医学である。本講義では、代表的な疾患を通してリハビリテーション医学を学んでいく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション、障害とは	解剖学　生理学　運動学を復習
2	中枢神経疾患とは	配布資料を読むことを勧める
3	末梢神経疾患とは	配布資料を読むことを勧める
4	循環器疾患とは	配布資料を読むことを勧める
5	呼吸器疾患とは	配布資料を読むことを勧める
6	消化器疾患とは	配布資料を読むことを勧める
7	整形外科疾患とは	配布資料を読むことを勧める
8	重症筋無力症、多発筋炎とは	配布資料を読むことを勧める
9	多発性硬化症、ギランバレーとは	配布資料を読むことを勧める
10	脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症とは	配布資料を読むことを勧める
11	パーキンソン病とは	配布資料を読むことを勧める
12	脊髄損傷とはⅠ	配布資料を読むことを勧める
13	脊髄損傷とはⅡ	配布資料を読むことを勧める
14	脳血管疾患とは	配布資料を読むことを勧める
15	リハビリテーション医学のまとめ	配布資料を読むことを勧める

使用教科書	指定せず　配布資料
参考図書	羊土社　PT・OTビジュアルテキスト　専門基礎　リハビリテーション医学　第1版
単位認定の方法及び基準	課題10%　小テスト　20%　定期試験70%　の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 総合病院や通所・訪問系サービスに携わった経験がある。病院や施設での実務経験に基づいて、全領域で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門基礎分野	神経内科学	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	岡田尚志郎

GIO（一般教育目標）
神経系の正常構造と機能を理解し、おもな神経疾患の病因、病態生理、症候、診断、治療を学ぶ。

SBO（行動目標）
(1) 中枢神経系、末梢神経系の構造・機能と神経症状、症候群を関連付けることができる。
(2) 主な神経症状に対する基本的な検査方法について説明することができる。
(3) 代表的な疾患や症候群の病態について述べることができる。
(4) 主な神経難病の特徴について述べることができる。

授業概要
リハビリテーションの対象となる神経筋疾患を理解するために必要な解剖生理学を復習する。脳血管障害、Parkinson病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、Guillain-Barré症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィーを含む主要な神経筋疾患の神経症候、検査や治療について学ぶ。外傷や腫瘍性疾患、小児期の代表的な神経疾患についても取り上げる。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	総論：神経系の解剖・生理、神経学的検査法	神経内科学：2,4章
2	総論：神経学的診断法、おもな神経症候のみかた	神経内科学：3,7,8,9,10,17,18章
3	総論：高次脳機能障害のみかた	神経内科学：5,11,12,13,14,15,16章
4	各論：腫瘍性疾患、外傷	神経内科学：19,22,23,24章
5	各論：脳血管障害	神経内科学：20章
6	各論：認知症	神経内科学：21章
7	各論：パーキンソン病とその類縁疾患	神経内科学：26章
8	各論：変性疾患（脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患）	神経内科学：25章
9	各論：脱髄疾患（多発性硬化症）、中毒性疾患	神経内科学：25,31章
10	各論：感染性疾患	神経内科学：30章
11	各論：末梢神経障害	神経内科学：27章
12	各論：神経筋接合部疾患、筋疾患	神経内科学：29章
13	各論：てんかん、頭痛	神経内科学：6,28章
14	各論：小児神経疾患	神経内科学：32章
15	各論：内科疾患に伴う神経障害	医学生・研修医のための神経内科学：17章

使用教科書	「≪標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野≫神経内科学（第５版）（川平和美（編）、医学書院）」
参考図書	「医学生・研修医のための神経内科学（4版）（中外医学社）」、「脳神経内科学（理工図書）」、「病気がみえる〈vol.7〉脳・神経（2版）（メディックメディア）」
単位認定の方法及び基準	学期末に実施する期末試験の成績により評価する。（期末試験はマルチプルチョイス・クエスチョンを用い実施する。） ただし、各講義で実施する課題の成績は最大10％の範囲で最終成績に加味される。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 講義を担当する講師は過去に脳神経内科臨床を行っていた医師であり、医学生を対象とした神経内科学の講義を行った経験を有している。これらの実務経験を活かしてリハビリテーション対象疾患となる神経筋疾患への理解が深まるように努めます。

専門基礎分野	精神医学	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	石渡香住

GIO（一般教育目標）
多職種の連携が重要である精神科医療において、作業療法士としての役割を理解して、治療チームの一員として適切に考え、行動できるようになる。

SBO（行動目標）
①一般的な精神症状について説明できる。②内因性精神障害（統合失調症、うつ病など）の症状、治療について説明できる。③外因性精神障害の主なものについて、症状、病理を説明できる。④心因性精神障害の主なものについて、症状、病理、治療を説明できる。⑤精神科医療における治療やリハビリテーションについての基本的な考え方を理解する。

授業概要
昨今、精神科医療のニーズはますます高まってきている。対象となる疾患は、うつ病などの感情障害、統合失調症、認知症、てんかん、パーソナリティ障害など多岐にわたる。授業では精神医学総論、各論に加え、精神医学関連の法律や、歴史についても取り上げる。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	精神医学総論１	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	精神医学総論２（症候学）	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	感情障害１	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	感情障害２	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	統合失調症１	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	統合失調症２	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	統合失調症３	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	精神作用物質による精神および行動の障害	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	認知症	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	てんかん、摂食障害	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	神経症性障害１	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	神経症性障害２	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	パーソナリティ障害	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	治療とリハビリテーション、精神医学の歴史	予定している主題範囲内の教科書を読む
15	精神科医療の実際	予定している主題範囲内の教科書を読む

使用教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学第４版増補版」
参考図書	必要に応じて、資料を配付する。
単位認定の方法及び基準	定期試験による総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 精神科作業療法士として大学および精神科病院にて日常的に精神疾患患者のリハビリテーションにあたっている。その実務経験に基づいた内容の講義を行う。知識の習得のみにとどまらず、心に共感し健康な部分を捉える能力を養う。精神障害者の社会生活面での援助のあり方を学ぶ。

専門基礎分野	地域リハビリテーション学	昼間部 2年次	後期	2単位・15回	講義	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしく生き生きとした生活が送れるよう、作業療法士としての役割について修得する。

SBO（行動目標）
①地域包括ケアシステム・社会保障制度について、知識を深める　②地域での多職種の役割を理解する　③災害時の作業療法士としての役割を考える　④バリアフリー・ユニバーサルデザインについて理解を深める　⑤自分が暮らしている地域のサービスについて調べ紹介する

授業概要
患者及び障害者が住み慣れた地域で生活をしていくために必要な知識を学ぶ。更に、それを取り巻く社会・地域の環境について事例を通し理解を深めていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	地域作業療法の基盤と背景、地域作業療法定義　地域作業療法の役割	復：配布プリントの復習
2	地域包括ケアシステムとは	復：配布プリントの復習
3	ケアマネジャーの仕事	復：配布プリントの復習
4	地域ケア会議	復：配布プリントの復習
5	救命救急（看護師）	復：配布プリントの復習
6	災害時における作業療法の役割	復：配布プリントの復習
7	行政・保険外での作業療法	復：配布プリントの復習
8	地域作業療法事例を通して①	復：配布プリントの復習
9	地域作業療法事例を通して②	復：配布プリントの復習
10	地域作業療法事例を通して③	復：配布プリントの復習
11	心と社会のバリアフリー　ユニバーサルデザイン	予：自分が住む地域のバリアフリーチェック
12	生活の中で見つけたユニバーサルデザインの発表	復：配布プリントの復習
13	自分が暮らしている地域のサービス①	レポート作成
14	自分が暮らしている地域のサービス②	レポート作成
15	発表　まとめ	

使用教科書	「PTOTビュジュアルテキスト　地域リハビリテーション学　第２版」
参考図書	『地域リハビリテーション論Ver7』　『作業療法を観る』　『地域包括リハビリテーション実践マニュアル』
単位認定の方法及び基準	課題・発表30％（課題提出期限を過ぎた者は減点とする　発表に参加できなかった者は減点とする）　定期試験70％（本試験と同等範囲の再試験あり）の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は、入所/通所サービス・訪問リハビリテーションにおいて、治療に携わった経験がある。更に、地域支援事業の高齢者フレイル予防のトレーナーとして活動を開始した。地域で活動できる作業療法士の育成のための授業を展開する。

専門分野	基礎作業学実習Ⅱ	昼間部 2年次	前期	1単位・15回	実習	林一斗

GIO（一般教育目標）
作業療法対象者の疾患特性、生活暦、社会・文化的背景に配慮した作業活動を選択し、どのように作業療法場面に適用させるか具体的に説明できる。作業療法が医療行為として成り立つための要件、治療法としての根拠を理解する。

SBO（行動目標）
①作業することが人々の癒しとなることについて、その機序を身体・心理・社会的側面から説明できる。②心身機能の回復に作用する作業について、運動学・神経生理学の観点から説明できる。③心身機能の回復に作用する作業について、心理・社会学の観点から説明できる。④心身機能の特性に応じた作業の提案ができる。⑤ライフステージや個々の生活暦に応じた作業の提案ができる。⑥対象者個々の特性に応じ、提案した作業のアレンジ（環境・道具、難易度の調整など）ができる。

授業概要
作業療法における基本的な内容である。講義を聴くだけではなく、自ら考え、発表していくことも通じて身につけていけるようにしていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション 人と作業	授業内容をふりかえる課題
2	①作業療法の成り立ち ②作業を治療につなげる理論	授業内容をふりかえる課題
3	身体機能と作業	授業内容をふりかえる課題
4	精神機能と作業	授業内容をふりかえる課題
5	生活歴と作業の価値	授業内容をふりかえる課題
6	作業の設定(環境・道具・難易度)	授業内容をふりかえる課題
7	作業分析①	レポート課題
8	作業分析②	レポート課題
9	ライフステージと作業療法① 発達期	授業内容をふりかえる課題
10	ライフステージと作業療法② 青年期	授業内容をふりかえる課題
11	ライフステージと作業療法③ 高齢期	授業内容をふりかえる課題
12	自分がやってほしい作業を考える①	レポート課題
13	自分がやってほしい作業を考える②	レポート課題
14	作業療法の提供①	レポート課題
15	作業療法の提供②	レポート課題

使用教科書	標準作業療法学「基礎作業学」医学書院
参考図書	図書室蔵書：（生活史理解の参考）「高齢者の生活史事典」、（基礎作業学）「作業療法ゴールドマスターテキスト　作業学」
単位認定の方法及び基準	定期試験70％、提出課題30％で判定する。【再試験の取扱：有　再試験は定期試験と同等の範囲にて判定する】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 回復期リハビリテーション病棟で様々な作業課題を通じて治療を行ってきた講師が、その経験を活かし対象者に合った作業課題の提示につなげられるよう伝えていく。
有	

専門分野	作業療法管理学	昼間部 2年次	後期	2単位・15回	講義	林一斗

GIO（一般教育目標）
作業療法部門の管理・運営(マネジメント)について基本的な視点を理解する。

SBO（行動目標）
1．作業療法部門の管理・運営について説明できる。
2．医療関係の中における他部門と作業療法部門の役割を理解することができる。
3．管理・運営に関する法律・制度について理解することができる。

授業概要
管理・運営(マネジメント)について基本的な概念を学習し、作業療法に関わる診療報酬や施設認可の規定、記録などの個人情報の取り扱い、医療事故・ヒヤリハットに対する危機管理等を理解する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション 管理・運営とは	復習：授業資料の復習
2	諸制度と診療報酬、施設認可①	復習：授業資料の復習
3	諸制度と診療報酬、施設認可②	復習：授業資料の復習
4	組織、法人 病院運営	復習：授業資料の復習
5	マネジメント① 人・物・金	復習：授業資料の復習
6	マネジメント② 情報・時間・ストレス	復習：授業資料の復習
7	目標管理 人事評価	復習：授業資料の復習
8	診療記録	復習：授業資料の復習
9	リスクマネジメント① KYT	復習：授業資料の復習
10	リスクマネジメント② インシデント・アクシデント	復習：授業資料の復習
11	感染対策 スタンダードプリコーション	復習：授業資料の復習
12	個人情報の取り扱い	復習：授業資料の復習
13	チームアプローチと各職種の役割① 病院における多職種連携	復習：授業資料の復習
14	チームアプローチと各職種の役割② 地域における多職種連携	復習：授業資料の復習
15	作業療法士のキャリア	復習：授業資料の復習

使用教科書	適宜、資料配布する。
参考図書	作業療法管理学入門　第二版　編著：大庭潤平　医歯薬出版株式会社
単位認定の方法及び基準	課題(小テスト含む) 20% 、定期試験 80%で判定する。 【定期試験の取扱：有　定期試験と同等の範囲】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 回復期リハビリテーション病棟で管理職経験がある講師が、業務に必要な制度や医療人としての立ち振舞いを伝える。また、リハビリ以外にも大切な仕事があることを知り、作業療法士について考える機会になるよう授業展開していく。

専門分野	高齢期評価学	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	正村好臣

GIO（一般教育目標）
高齢者の身体・心理・社会的特性および現代の社会背景を把握し、高齢者に対する作業療法の目的・介入の原則を理解する。

SBO（行動目標）
①高齢者および高齢者の生活を支える介護者を取り巻く社会的問題を説明できる。②高齢者の身体・精神・心理的特徴を列挙できる。③高齢者に生じやすい症候・疾病とその原因（背景）を説明できる。④高齢者の健康状態（身体・精神・心理）および日常生活を客観的に理解する方法・手段を説明できる。⑤高齢者に対する作業療法事例を読み解き、情報を整理し全体像を説明することができる。

授業概要
少子高齢社会における諸問題を身近に感じながら、作業療法士に求められる役割を考察できるよう導く。事例報告や学術論文、新聞記事を用い、高齢者の生活を多角的かつ客観的にとらえる具体的方法を紹介する。さまざまな職種、地域社会とともに活躍できる作業療法士を目指し、高齢者を対象とした作業療法評価・介入の原則を教授したい。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	高齢社会を理解できる	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	高齢期の課題を理解できる	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	社会制度を理解できる	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	高齢期の一般的特徴①	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	高齢期の一般的特徴②	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	高齢期に多い疾患について理解できる① 循環器・呼吸器疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	高齢期に多い疾患について理解できる② 神経疾患・運動器疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	高齢期に多い疾患について理解できる③ 内分泌疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	高齢期に多い疾患について理解できる④ 精神疾患・皮膚疾患・眼疾患	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	認知症	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	認知症高齢者の作業療法	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	認知症高齢者に対する作業療法のあり方を理解できる	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	事例検討：作業療法評価計画を立案する①ICF作成	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	事例検討：作業療法評価計画を立案する②ICF発表	予定している主題範囲内の教科書を読む
15	高齢者の認知機能評価・総論	高齢者のための知的機能検査の手引きを読む

使用教科書	高齢者のための知的機能検査の手引き：ワールドプランニング　高齢期作業療法学 第4版：医学書院
参考図書	適宜紹介する。
単位認定の方法及び基準	定期試験80％および授業態度・課題20％による総合評価 【再試験の取り扱い：有り】　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	高次脳機能評価学	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）

高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の知識や評価技術を理解し、習得することを目的とする。

SBO（行動目標）

①大脳の構造を大まかに説明できる
②CTやMRIなどの画像所見について大まかに説明できる
③各障害の症状や特徴を挙げ、必要な評価を選択することができる
④作業療法を実践するための治療方法がいくつか挙げられる

授業概要

講義、映像（画像所見含む）、演習を通じて、高次脳機能障害の特徴がイメージできるよう進めていく。次に、各評価バッテリーや検査の目的を理解し、クライエントに応じた評価が選択出来るようグループディスカッションを取り入れていく。さらに、評価技術体験を通し、臨床評価実習につなげていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	コースオリエンテーション、高次脳機能障害とは（総論）	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	脳の機能解剖について	中枢神経系、大脳の構造について
3	意識障害・注意障害の概念、評価、介入原則	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	介入演習	評価バッテリー、検査方法の確認
5	記憶障害・知能の概念、評価、介入原則	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	介入演習	評価バッテリー、検査方法の確認
7	介入演習	評価バッテリー、検査方法の確認
8	失語症・失認症の概念、評価、介入原則	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	介入演習	評価バッテリー、検査方法の確認
10	視空間認知障害・半側空間無視の概念、評価、介入原則	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	介入演習	評価バッテリー、検査方法の確認
12	失行症・遂行機能障害・社会適応障害の概念、評価、介入原則	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	介入演習	評価バッテリー、検査方法の確認
14	介入演習	評価バッテリー、検査方法の確認
15	画像所見の診かた	「X-P」「CT」「MRI」「MRA」について

使用教科書	「 標準作業療法学専門分野 高次脳機能作業療法学第2版 医学書院」「 病気がみえる⑦　脳・神経 第2版 メディックメディア 」「リハに役立つ脳画像 改訂第2版　メジカルビュー社 」
参考図書	「 作業療法評価学第3版 」
単位認定の方法及び基準	定期試験80％　授業課題20％による総合評価 【再試：有　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関、通所系および在宅リハビリテーションに携わってきた。その中でも数多くの高次脳機能障害者と関り、支援してきた。その経験談を交え特徴を伝えるとともに、千差万別であることを理解してもらえるよう授業展開していく。

専門分野	生活活動評価学	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
作業療法は人の生活・社会における行為を支援する。その支援を行うためにこの授業では、日常生活活動（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）の概念を理解し、評価・分析ができるようになることを目的とする。

SBO（行動目標）
1.基本動作・日常生活活動（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）の概念を理解する
2.基本動作・日常生活活動（ADL）・手段的日常生活動作（IADL）の評価を行うことができる
3.各日常生活行為の特性を学び、観察ポイントを理解する
4.各日常生活行為の特性を学び、福祉用具・自助具等での生活の工夫について理解することができる

授業概要
本授業では、日常生活活動とそれに関連する動作の分析・評価を行う。各日常生活行為の特性に合わせた生活の工夫や指導方法を事例を交えて学ぶ。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	日常生活活動(ADL)と手段的日常生活動作（IADL）の概念	復：ADLとIADLについて説明できる
2	ADLの評価法（日常生活自立度）	復：評価法の特徴の確認
3	ADLの評価法（BI）	復：評価法の特徴の確認
4	ADLの評価法（FIM①）	復：評価法の特徴の確認
5	ADLの評価法（FIM②）	復：配布資料の復習
6	ADLの評価法（FIM③）	復：配布資料の復習
7	ADLの評価法　-事例-	復：配布資料の復習
8	ADL・IADLの評価法　その他	復：配布資料の復習
9	福祉用具・自助具の概要	復：配布資料の復習
10	更衣動作の観察ポイント　関連する福祉用具自助具	復：配布資料の復習
11	食事・整容動作の観察ポイント　関連する福祉用具自助具	復：配布資料の復習
12	トイレ・入浴動作の観察ポイント　関連する福祉用具自助具	復：配布資料の復習
13	外出（公共交通機関含む）の観察ポイント　関連する福祉用具自助具	復：配布資料の復習
14	家事・育児等の観察ポイント	復：配布資料の復習
15	車イス介助実技　まとめ　国家試験過去問題	復：配布資料の復習

使用教科書	作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 日常生活活動学（ADL）
参考図書	①新版姿勢と動作.メジカルフレンド社　.②作業療法学全書第10巻作業療法学2福祉用具の使い方・住環境整備.協同医書出版社. ③症例運動分析-動画から学ぶ姿勢と動作分析-※その他、資料を配布する。
単位認定の方法及び基準	課題・発表10%（課題提出期限を過ぎた者は減点とする　発表に参加できなかった者は減点とする） 定期試験90%（本試験と同等範囲の再試験あり）の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は作業療法士として、医療・介護・在宅リハビリテーションにて、個々の特性に合わせたADLの治療に携わってきた。その経験を活かし『作業療法士として生活を観る』視点を伝える授業を展開していく。

専門分野	作業療法評価学実習Ⅰ	昼間部 2年次	通年	4単位・60回	実習	正村好臣

GIO（一般教育目標）
身体分野での評価が行えるようになるために、代表的な評価について知識・技術を習得する。

SBO（行動目標）
1.身体障害に用いられるそれぞれの評価の目的を口頭で述べることが出来る。
2.作業療法で用いる評価と記録を正しく行うことが出来る。
3.これらの検査法の技術を体得し、実際に施行することが出来る。

授業概要
身体障害作業療法領域で主に使われる身体機能の評価技法を学習する。評価の目的を理解し、記録を正しく行うことができることと、評価結果を列挙し、治療計画と結びつけられることを目標とする。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	徒手筋力検査法の基礎	予：教科書の確認　復習：授業資料の復習
2	徒手筋力検査法 上肢　①	復：実技の復習
3	関節可動域の基礎	予：教科書の確認　復習：授業資料の復習
4	関節可動域 上肢 ①	復：実技の復習
5	徒手筋力検査法 上肢　①	復：実技の復習
6	関節可動域 上肢 ①	復：実技の復習
7	徒手筋力検査法 上肢　②	復：実技の復習
8	関節可動域 上肢 ②	復：実技の復習
9	実技まとめ　1〜8コマ	1-8授業内容の確認
10	実技まとめ　1〜8コマ	1-8授業内容の確認
11	実技確認	1-8授業内容の確認
12	実技確認	1-8授業内容の確認
13	徒手筋力検査法 上肢　③	復：実技の復習
14	関節可動域 上肢 ③	復：実技の復習
15	血圧・脈拍・呼吸・意識障害の評価	復：実技の復習

使用教科書	能登真一,他：標準作業療法学作業療法評価学第3版 青木主税：動画で学ぶ関節可動域測定法ROMナビ 新・徒手筋力検査法原著第10版
参考図書	病気が見えるVol.7脳・神経第2版、石川　齊：作業療法 技術ガイド 第4版 身体機能作業療法学　第4版
単位認定の方法及び基準	実技試験60％、小テスト・授業態度 40% の総合評価課題 【再試験の取り扱い：無し】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	作業療法評価学実習Ⅰ	昼間部 2年次	通年	4単位・60回	実習	正村好臣

GIO（一般教育目標）
身体分野での評価が行えるようになるために、代表的な評価について知識・技術を習得する。

SBO（行動目標）
1.身体障害に用いられるそれぞれの評価の目的を口頭で述べることが出来る。
2.作業療法で用いる評価と記録を正しく行うことが出来る。
3. これらの検査法の技術を体得し、実際に施行することが出来る。

授業概要
身体障害作業療法領域で主に使われる身体機能の評価技法を学習する。評価の目的を理解し、記録を正しく行うことができることと、評価結果を列挙し、治療計画と結びつけられることを目標とする。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
16	血圧・脈拍・呼吸・意識障害を適切に実施し訓練開始の是非を判断。	復：実技の復習
17	反射検査・筋緊張検査の評価	復：実技の復習
18	反射検査・筋緊張検査の説明と実施。検査結果からの考察。	復：実技の復習
19	知覚検査（表在感覚）の評価	復：実技の復習
20	知覚検査の手順、実施における説明と実施。ADLとの関連性の考察。	復：実技の復習
21	知覚検査（深部感覚）の評価	復：実技の復習
22	知覚検査の手順、実施における説明と実施。ADLとの関連性の考察。	復：実技の復習
23	脳血管障害に対する検査の評価　Ⅰ	復：実技の復習
24	片麻痺機能テストを正確に実施出来る。観察からの考察。Ⅰ	復：実技の復習
25	脳血管障害に対する検査の評価　Ⅱ	復：実技の復習
26	片麻痺機能テストを正確に実施出来る。観察からの考察。Ⅱ	復：実技の復習
27	実技確認	15-26授業内容の確認
28	実技確認	15-26授業内容の確認
29	実技確認	15-26授業内容の確認
30	実技確認	15-26授業内容の確認

使用教科書	能登真一,他：標準作業療法学作業療法評価学第3版 青木主税：動画で学ぶ関節可動域測定法ROMナビ 新・徒手筋力検査法原著第10版
参考図書	病気が見えるVol.7脳・神経第2版、石川　齊：作業療法 技術ガイド 第4版 身体機能作業療法学　第4版
単位認定の方法及び基準	実技試験60％、小テスト・授業態度 40% の総合評価課題
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	作業療法評価学実習Ⅰ	昼間部 2年次	通年	4単位・60回	実習	正村好臣

GIO（一般教育目標）
身体分野での評価が行えるようになるために、代表的な評価について知識・技術を習得する。

SBO（行動目標）
1.身体障害に用いられるそれぞれの評価の目的を口頭で述べることが出来る。
2.作業療法で用いる評価と記録を正しく行うことが出来る。
3. これらの検査法の技術を体得し、実際に施行することが出来る。

授業概要
身体障害作業療法領域で主に使われる身体機能の評価技法を学習する。評価の目的を理解し、記録を正しく行うことができることと、評価結果を列挙し、治療計画と結びつけられることを目標とする。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
31	脳血管障害に対する検査の評価　Ⅲ	復：実技の復習
32	片麻痺機能テストを正確に実施出来る。観察からの考察。Ⅲ	復：実技の復習
33	形態計測・姿勢分析の評価	復：実技の復習
34	形態計測・姿勢分析結果から考察を加える。	復：実技の復習
35	上肢機能検査（STEF・MFT）	復：実技の復習
36	上肢機能検査（STEF・MFT）。検査結果からの考察。	復：実技の復習
37	徒手筋力検査法　下肢　①	復：実技の復習
38	関節可動域　下肢 ①	復：実技の復習
39	徒手筋力検査法　下肢　②	復：実技の復習
40	関節可動域　下肢 ②	復：実技の復習
41	関節可動域　下肢 ②	復：実技の復習
42	実技まとめ　37-41	37-41授業内容の確認
43	実技まとめ　37-41	37-41授業内容の確認
44	実技確認　37-41	37-41授業内容の確認
45	実技確認　37-41	37-41授業内容の確認

使用教科書	能登真一,他：標準作業療法学作業療法評価学第3版 青木主税：動画で学ぶ関節可動域測定法ROMナビ 新・徒手筋力検査法原著第10版
参考図書	病気が見えるVol.7脳・神経第2版、石川　齊：作業療法 技術ガイド 第4版 身体機能作業療法学　第4版
単位認定の方法及び基準	実技試験60％、小テスト・授業態度 40% の総合評価課題 【再試験の取り扱い：無し】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	作業療法評価学実習Ⅰ	昼間部 2年次	通年	4単位・60回	実習	正村好臣

GIO（一般教育目標）
身体分野での評価が行えるようになるために、代表的な評価について知識・技術を習得する。

SBO（行動目標）
1.身体障害に用いられるそれぞれの評価の目的を口頭で述べることが出来る。
2.作業療法で用いる評価と記録を正しく行うことが出来る。
3. これらの検査法の技術を体得し、実際に施行することが出来る。

授業概要
身体障害作業療法領域で主に使われる身体機能の評価技法を学習する。評価の目的を理解し、記録を正しく行うことができることと、評価結果を列挙し、治療計画と結びつけられることを目標とする。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
46	徒手筋力検査法　頸部　体幹　①	復：実技の復習
47	関節可動域　頸部　体幹　①	復：実技の復習
18	徒手筋力検査法　頸部　体幹　②	復：実技の復習
19	関節可動域　頸部　体幹　②	復：実技の復習
50	バランス検査の評価	復：実技の復習
51	バランス検査の説明と実施。検査結果からの考察。	復：実技の復習
52	協調性検査の評価	復：実技の復習
53	協調性検査の説明と実施。検査結果からの考察。	復：実技の復習
54	脳神経検査の評価	復：実技の復習
55	脳神経検査の説明と実施。検査結果からの考察。	復：実技の復習
56	実技総復習 練習	復：実技の復習
57	実技総復習 練習	復：実技の復習
58	実技総復習 練習	復：実技の復習
59	実技総復習 練習	復：実技の復習
60	検査・測定のまとめ	予：教科書の確認　復習：授業資料の復習

使用教科書	能登真一,他：標準作業療法学作業療法評価学第3版 青木主税：動画で学ぶ関節可動域測定法ROMナビ 新・徒手筋力検査法原著第10版
参考図書	病気が見えるVol.7脳・神経第2版、石川　齊：作業療法 技術ガイド 第4版 身体機能作業療法学　第4版
単位認定の方法及び基準	実技試験60％、小テスト・授業態度 40% の総合評価課題
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	作業療法評価学実習Ⅱ	昼間部 2年次	通年	2単位・15回	実習	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）

作業療法士として臨床で必要な観察技能を習得し、その観察場面から作業療法評価計画の立案ができる。

SBO（行動目標）

① 姿勢および基本的動作場面の観察から特徴を捉えることができる
② 姿勢および基本的動作観察について、専門用語を用いた表現が概ねできる
③ 姿勢および基本的動作観察から困難さを見つけ、指導のもと作業療法計画の立案が一部できる

授業概要

小グループでお互いの姿勢および基本的動作の観察を実施する。各人の特徴を捉えた記録ができるよう観察ポイントを提示していく。また、障害を抱えた事例の画像や動画を用い、疾患からの特徴や個別性を捉える観察能力を高め、さらに作業療法評価計画の立案が一部できるよう授業展開していく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	観察と分析の違い	配布資料の復習
2	画像から姿勢の特徴を学ぶ：観察ポイントを紹介	解剖・運動学の復習
3	画像から姿勢の特徴を見つける：アクティブラーニング	解剖・運動学の復習
4	姿勢観察から専門用語を用いて記録する（模倣）	専門用語の復習
5	静止姿勢画像および動画視聴から第一印象を記録する①	専門用語の活用方法
6	静止姿勢画像および動画視聴から第一印象を記録する②	クライエントの特徴をつかむ
7	観察から分析までの流れ（大枠）を知る	配布資料の復習
8	資料を通じて観察から分析までの流れを理解する①	配布資料の復習
9	資料を通じて観察から分析までの流れを理解する②	配布資料の復習
10	演習：事例を通じて姿勢観察し記録する	記録内容の振り返り
11	演習：事例を通じて姿勢観察した情報をもとに棒人間を書く	棒人間の書き方
12	演習：座位・側臥位・立位姿勢を観察し姿勢分析を行う①	記録内容の振り返り
13	演習：座位・側臥位・立位姿勢を観察し姿勢分析を行う②	棒人間の書き方
14	発表	発表の準備
15	総まとめ	総まとめ

使用教科書	「動作分析　臨床活用講座－バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践－ メジカルビュー社」
参考図書	必要に応じて授業内で紹介する
単位認定の方法及び基準	授業課題50%およびデモンストレーション・発表内容50%による総合評価（通年評価）。ルーブリックをもとに評価する。課題未提出および発表不参加は減点する。【再試：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 観察および動作分析は必須であり、臨床現場では作業療法評価に結びつく技術を身につけてきた。また、バイオメカニクスに焦点をあて、3次元動作解析装置を用いた立ち上がり動作を分析してきた経験がある。その経験談も交えながら、苦手意識を克服できる解剖・運動学の知識を統合させた授業を展開していく。

専門分野	作業療法評価学実習Ⅱ	昼間部 2年次	通年	2単位・15回	実習	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）
作業療法士として臨床で必要な動作分析技能を習得する。作業療法評価学実習Ⅰで学んだ知識を土台にし、あらゆる観察場面からクライエントの全身状態を予測し、最適な作業療法評価を選択できることを目的とする。

SBO（行動目標）
① 動作場面の観察を通じ、クライエントの特徴を捉えることができる
② 動作観察および動作分析について、専門用語を用いた記録が指導のもと一人でできる
③ 姿勢および動作場面の観察から作業療法計画の立案が一部できる

授業概要
観察するポイントを提示したうえで、健常者と各疾患のクライエントがどのような動作になるのか実演し、観察能力を高めていく。また、画像や動画を用いた事例検討を基に疾患の特徴を理解し、あらゆる観察場面からクライエントの全身状態を予測し、最適な作業療法評価を選択できるよう授業展開していく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
16	CVA・整形疾患・パーキンソン病の寝返り動作について①	各疾患の典型的病態像の復習
17	CVA・整形疾患・パーキンソン病の寝返り動作について②	疾患別の寝返りについて
18	演習：グループで疾患別の寝返りを演じる	寝返り動作で必要な要素
19	演習：動作観察から棒人間を含めた記録の実施①	動作観察のポイントを復習
20	演習：動作観察から棒人間を含めた記録の実施②	文章表現、記録の書き方
21	発表：CVA　寝返り動作	発表準備
22	発表：整形疾患　寝返り動作	発表準備
23	発表：パーキンソン病　寝返り動作	発表準備
24	動作観察から問題点を考える	作業療法評価学実習Ⅰの復習
25	動作観察から作業療法評価項目を立案する	作業療法評価学実習Ⅰの復習
26	動作観察から動作分析記録の実施	作業療法評価学実習Ⅰの復習
27	事例を通じて動作観察の実施：アクティブラーニング①	作業療法評価学実習Ⅰの復習
28	事例を通じて作業療法評価を立案する：アクティブラーニング②	作業療法評価学実習Ⅰの復習
29	事例を通じて動作分析記録の実施：アクティブラーニング③	作業療法評価学実習Ⅰの復習
30	事例を通じて動作分析記録の実施：アクティブラーニング④	総まとめ

使用教科書	「動作分析　臨床活用講座－バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践－ メジカルビュー社」
参考図書	必要に応じて授業内で紹介する
単位認定の方法及び基準	授業課題50％およびデモンストレーション・発表内容50％による総合評価（通年評価）。ルーブリックをもとに評価する。課題未提出および発表不参加は減点する。【再試：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 観察および動作分析は必須であり、臨床現場では作業療法評価に結びつく技術を身につけてきた。また、バイオメカニクスに焦点をあて、3次元動作解析装置を用いた立ち上がり動作を分析してきた経験がある。その経験談も交えながら、苦手意識を克服できる解剖・運動学の知識を統合させた授業を展開していく。

専門分野	作業療法評価学演習	昼間部 2年次	通年	4単位・30回	演習	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
臨床評価実習に必要なスキルとして、作業療法学生としての基本的態度・知識・技術を習得すべく、実践的な準備・学習を行っていく。

SBO（行動目標）
①見学実習の振り返りを行い、自分に必要な課題を整理する　②臨床現場で相応しい態度・接遇を理解する　③作業療法のプロセスを理解し、適切な情報収集とリスク管理について学ぶ　④作業療法のプロセスを理解し、必要な評価項目を選択し評価計画をグループで立案することができる　⑤作業療法のプロセスを理解し、評価結果からICFにまとめ、統合と解釈、目標を設定することが理解出来る⑥下肢の筋肉について知識を深めることが出来る

授業概要
通年の授業である。前期は作業療法プロセスを理解し、グループで事例に取り組んでいく。後期は実際に障害を持った方に作業療法評価を行い、その内容をまとめる。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	見学実習の振り返り　臨床実習Ⅰ（従来症例型、CCS）について　筋カード（下肢）	下肢の筋カード作成
2	医療職として相応しい態度・接遇 実習の手引きの確認	実習の手引きをみて、実習までの予定を確認する
3	評価実習に向けて個人の目標を立てる	評価実習に向けて必要なことをまとめる
4	情報収集（一般・他部門）	配布資料を復讐する
5	観察のポイント（主観的・客観的）	観察のポイントの確認
6	疾患別評価項目（グループ作成）	疾患別評価項目を調べる
7	疾患別評価項目（グループ発表）	
8	評価計画の作成	配布資料を復讐する
9	ICFにまとめる①	ICFについて再学習してくる
10	ICFにまとめる②	
11	統合と解釈	配布資料を復讐する
12	目標設定	配布資料を復讐する
13	事例検討	配布資料を復讐する
14	事例検討	配布資料を復讐する
15	まとめ	

使用教科書	『実習の要点を網羅　作業療法臨床実習のチェックポイント　メジカルビュー社』
参考図書	『臨床実習Ⅰの手引き』『臨床実習とケーススタディ　第２版』『作業療法実践の仕組み　改訂第２版』
単位認定の方法及び基準	前期：課題・発表（35%）下肢筋小テスト（15%）　　後期：課題・発表（25%）実技（25%）の総合評価 再試験は実施しない　※課題提出遅れ、発表に出席しない場合は減点
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は作業療法士として、医療・介護・在宅リハビリテーションに携わり、実習生を指導した経験がある。その経験を活かし、臨床実習Ⅰで必要な技術・知識を習得するため事例検討を含めた授業を展開していく。

専門分野	作業療法評価学演習	昼間部 2年次	通年	4単位・30回	演習	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
臨床評価実習に必要なスキルとして、作業療法学生としての基本的態度・知識・技術を習得すべく、実践的な準備・学習を行っていく。

SBO（行動目標）
①臨床現場で相応しい態度・接遇を実施する　②当事者に対して、必要な情報を的確に収集することが出来る　③当事者に対して、評価項目を選択し、またそれらのリスクを把握し、グループで評価計画を立案する　④当事者に対して、作業療法評価を実施する　⑤評価結果からICFにまとめ、統合と解釈、作業療法目標とプログラムの立案をすることが出来る

授業概要
通年の授業である。前期は作業療法プロセスを理解し、グループで事例に取り組んでいく。後期は実際に障害を持った方に作業療法評価を行い、その内容をまとめる。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
16	臨床実習Ⅰ　実習の手引きに沿って確認　　症例のまとめ方	実習の手引き内容を読んでくる
17	評価実習演習①準備　グループ	担当当事者の疾患について調べる
18	評価実習演習②準備　グループ	評価項目の立案を考えてくる　評価の練習
19	評価実習演習③準備　グループ	身だしなみやマナーの再確認　評価の練習
20	評価実習演習④実施　グループ　※当事者来校	予：評価の練習
21	評価実習演習⑤振り返り・準備　グループ	不足評価項目の検討　評価の練習
22	評価実習演習⑥振り返り・準備　グループ	不足評価項目の検討　評価の練習
23	評価実習演習⑦実施　グループ　※当事者来校	復：レポート作成　グループ
24	評価実習演習⑧評価のまとめ　グループ	レポート作成　グループ
25	評価実習演習⑨評価のまとめ　グループ	レポート作成　グループ
26	評価実習演習⑩評価のまとめ　グループ　発表	発表をスムーズに行う準備をしてくる
27	評価実習演習⑪目標設定とプログラム立案　個人	個人課題作成
28	評価実習演習⑫目標設定とプログラム立案　個人	個別課題作成
29	評価実習演習⑬目標設定とプログラム立案　個人　発表	発表をスムーズに行う準備をしてくる　実習に必要なもの再確認
30	1年生との合同授業　それぞれの実習に向けて	昨年度の見学実習について、下級生にアドバイスする準備をしてくる。

使用教科書	『実習の要点を網羅　作業療法臨床実習のチェックポイント　メジカルビュー社』
参考図書	『臨床実習Ⅰの手引き』『臨床実習とケーススタディ　第２版』『作業療法実践の仕組み　改訂第２版』
単位認定の方法及び基準	前期：課題・発表（35%）下肢筋小テスト（15%）　　後期：課題・発表（25%）実技（25%）の総合評価 再試験は実施しない　※課題提出遅れ、発表に出席しない場合は減点
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は作業療法士として、医療・介護・在宅リハビリテーションに携わり、実習生を指導した経験がある。その経験を活かし、臨床実習Ⅰで必要な技術・知識を習得するため事例検討を含めた授業を展開していく。

専門分野	作業治療学概論	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
この授業は作業療法の治療において,活動参加への支援を行うために必要な作業療法理論についての知識を習得することを目的とする。

SBO（行動目標）
① 作業療法理論とは何か、説明ができる
② ICF（国際機能分類）コードについて学び、適切に分類することができる
③ 作業療法の各理論について、自分の考えを述べることができる
④ 人間作業モデル・カナダモデル・MTDLPについて概要を説明することができ、事例を通して理解を深める

授業概要
対象者の活動参加への支援を行うにあたり、作業療法において様々な理論がある。この授業ではそれら理論を学び、作業療法の専門性とは何か、事例を通して知識を深めていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	作業療法における理論の必要性	配布資料と教科書の対象範囲を読む
2	人間作業モデル（MOHO)	配布資料と教科書の対象範囲を読む
3	カナダモデル（CMOP-E)	配布資料と教科書の対象範囲を読む
4	『機能訓練は作業療法か』	配布資料と教科書の対象範囲を読む
5	トップダウン・ボトムアップ	配布資料と教科書の対象範囲を読む
6	MTDLP①	配布資料と教科書の対象範囲を読む
7	MTDLP②	配布資料と教科書の対象範囲を読む
8	MTDLP③	配布資料と教科書の対象範囲を読む
9	MTDLP④	配布資料と教科書の対象範囲を読む
10	総合臨床実習発表聴講	1年後の自分をイメージする
11	ICFの第２レベルまで コード	配布資料と教科書の対象範囲を読む
12	『クライエントが作業を語ってくれない面接は失敗なのか』	配布資料と教科書の対象範囲を読む
13	『作業療法は説明と面接から始まる』	配布資料と教科書の対象範囲を読む
14	ケースレポート、レジュメ　について	配布資料と教科書の対象範囲を読む
15	国家試験過去問　まとめ	配布資料と教科書の対象範囲を読む

使用教科書	５Ｗ１Ｈでわかりやすく学べる「作業療法理論の教科書」　メジカルビュー社
参考図書	MEDICAL VIEW 「作業療法の話しをしよう」作業の力に気づくための歴史・理論・実践 標準作業療法学「作業療法学概論」　医学書院
単位認定の方法及び基準	課題・発表20％（課題提出期限を過ぎた者は減点とする　発表に参加できなかった者は減点とする） 定期試験80％（本試験と同等範囲の再試験あり）の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は作業療法士として、医療・介護・在宅リハビリテーションにて、個々の特性に合わせた治療に携わってきた。その経験を活かし『対象者の活動参加への支援を考えるための作業療法理論』を展開していく。

専門分野	身体機能作業治療学	昼間部 2年次	後期	2単位・15回	講義	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）
身体障害領域に関する作業療法実践に活用される各理論・技術を習得する。

SBO（行動目標）
① 作業療法実践に活用される各理論の種類を列挙できる
② 作業療法実践に活用される各理論の目的および技法を調べ簡単に説明できる
③ 作業療法実践に活用される各理論に興味関心を持ち、文献検索から情報を集約できる

授業概要
身体障害領域において、作業療法実践に活用されている各理論を紹介する。また、近年学会やジャーナルなどで報告されているトピックにも焦点をあて、各理論に興味関心をもってもらえるよう経験談を紹介していく。文献検索から必要な情報を集約し、スライド作成し発表を行う。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	作業療法理論とは：作業療法実践に活用される各理論の紹介（総論）	作業療法実践における各理論の予習
2	神経筋促通法：PNF・ボバースについて	関連資料を確認する
3	神経筋促通法：川平法について	関連資料を確認する
4	認知運動療法について	関連資料を確認する
5	環境適応について	関連資料を確認する
6	電気刺激療法：TENS、EMS、IVESなど	関連資料を確認する
7	CI療法・ロボットリハビリテーションについて	関連資料を確認する
8	演習：グループ　プレ発表 ①	プレ発表準備・発表後のスライド修正
9	演習：グループ　プレ発表 ②	プレ発表準備・発表後のスライド修正
10	演習：グループ　プレ発表 ③	プレ発表準備・発表後のスライド修正
11	文献検索および文献抄読から必要な情報を集約する	文献検索・抄読
12	本発表にむけての準備	本発表準備
13	演習：グループ　本発表 ①	本発表準備・発表後のスライド修正
14	演習：グループ　本発表 ②	本発表準備・発表後のスライド修正
15	演習：グループ　本発表 ③	本発表準備・発表後のスライド修正

使用教科書	必要に応じて資料を配付する
参考図書	「エガース片麻痺の作業療法」「Right in the Middle」「Steps to Follow」「作業療法ジャーナル」
単位認定の方法及び基準	授業課題に取り組む姿勢と課題内容50％ スライド発表50％による総合評価。ルーブリックをもとに評価する。課題未提出および発表不参加は減点する。【再試：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関、通所系および在宅リハビリテーションに携わってきた。医療機関では主にボバース理論に基づく治療を展開してきたが、勉強会および学会に参加することで他の理論に基づく技法に触れる機会も多く、経験談を交え特徴を理解してもらえるように授業展開していく。

専門分野	精神機能作業治療学	昼間部 2年次	後期	2単位・15回	講義	中込慶太

GIO（一般教育目標）
精神科作業療法に対する体系と目的・役割ならびに基本的視点を踏まえ、各疾患の回復過程に応じた作業療法について習得する。
そのために、歴史、法制度、社会情勢、理論、技法などを理解する。

SBO（行動目標）
⑴ 精神医学・臨床心理学・発達心理学などの作業療法に影響を与えている基礎理論の概略を説明できる
⑵ 精神医療・保健福祉の対象者がどのような人であるのかを説明できる
⑶ 関連する法制度、基準について、その内容を説明できる
⑷ 各疾患の回復状況に応じた作業療法を説明できる

授業概要
精神領域の重要なキーワードや視点を軸に基本的なこと、共通事項について学びを深めていく

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	精神障害とは	予定している主題範囲内の教科書を読む
2	精神機能作業療法の基本的視点について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
3	精神保健医療福祉の動向と精神機能作業療法の歴史について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	精神保健医療福祉について	予定している主題範囲内の教科書を読む
5	精神機能作業療法における検査法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	精神機能作業療法における検査法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
7	精神機能作業療法における検査法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	精神機能作業療法における検査法を学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
9	回復過程にける作業療法の視点について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
10	回復過程にける作業療法の視点について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	回復過程にける作業療法の視点について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
12	精神科作業療法における理論について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	精神科作業療法における理論について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	精神科作業療法の現状と今後の方向性について学ぶ	予定している主題範囲内の教科書を読む
15	精神作業療法のまとめ	全体の振り返りをする

使用教科書	標準作業療法学「精神機能作業療法学」 医学書院
参考図書	適宜、資料配布する。
単位認定の方法及び基準	課題10％　小テスト　20％　定期試験70％　の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 総合分野・領域における作業療法の経験を踏まえ、作業療法士としての基本を学んでいく。同時に臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。
有	

専門分野	発達過程作業治療学	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	中込慶太

GIO（一般教育目標）
脳性麻痺及び運動障害をもつ方に対する基礎知識・作業療法の評価法を実習し、治療への道筋を理解する。

SBO（行動目標）
①脳性麻痺の分類・疾患像が理解出来る
②各疾患の疾患像が理解出来る
③脳性麻痺、知的障害をもつ疾患児に対する作業療法の評価の概要を理解し、実施することが出来る

授業概要
本授業では、脳性麻痺および運動障害に関する基礎知識、評価について、講義と演習を通して学ぶ。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	発達過程について	復：基礎医学の復習
2	反射、平衡反応について	復：配布資料の復習
3	発達を評価する手段について	復：配布資料の復習
4	発達を評価する手段について	復：配布資料の復習
5	感覚について	復：配布資料の復習
6	感覚について	復：配布資料の復習
7	感覚統合について	復：配布資料の復習
8	脳性麻痺の評価	復：配布資料の復習
9	脳性麻痺の評価	復：配布資料の復習
10	筋ジストロフィーの評価	復：配布資料の復習
11	筋ジストロフィーの評価	復：配布資料の復習
12	二分脊椎の評価	復：配布資料の復習
13	二分脊椎の評価	復：配布資料の復習
14	DOWN症の評価	復：配布資料の復習
15	てんかんの評価	復：配布資料の復習

使用教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害 第3版　メディカルビュー
参考図書	適宜、資料配布する。
単位認定の方法及び基準	課題10%　小テスト　20%　定期試験70%　の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 総合病院や通所・訪問系サービスに携わった経験がある。病院や施設での実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。
有	

専門分野	高齢期作業治療学	昼間部 2年次	前期	2単位・15回	講義	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）
高齢期に多くみられる疾患に対する基礎知識と作業療法の治療的介入方法について過去の国家試験問題から学び深める

SBO（行動目標）
① 高齢期に多くみられる疾患の症状が生活に及ぼす影響を説明することができる
② 認知症の分類や疾患を列挙できる。また、行動や症状のとらえかたを理解し説明することができる
③ 国家試験問題を解きながらポスター作成およびシェア学習ができる

授業概要
高齢期における作業療法の概要を学ぶ。また、高齢期に多くみられる疾患について復習し、症状がどのように生活に影響を及ぼすか、作業療法ではどのような関わりがあるのかなどの考えを導く。講義形式ではなく、過去の国家試験問題をもとにポスター作成やシェア学習ができるよう演習形式で進めていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	高齢期の生理的特徴について自己学習	配付資料から調べ学習する項目を列挙する
2	シェア学習	ポスター内容の復習
3	高齢期の身体・心理的特徴について自己学習	配付資料から調べ学習する項目を列挙する
4	シェア学習	ポスター内容の復習
5	高齢期に多い疾患：循環器、呼吸器疾患について自己学習	配付資料から調べ学習する項目を列挙する
6	シェア学習	ポスター内容の復習
7	高齢期に多い疾患：神経疾患について自己学習	配付資料から調べ学習する項目を列挙する
8	シェア学習	ポスター内容の復習
9	高齢期に多い疾患：運動器疾患について自己学習	配付資料から調べ学習する項目を列挙する
10	シェア学習	ポスター内容の復習
11	認知症の症状と周辺症状について自己学習①	配付資料から調べ学習する項目を列挙する
12	認知症の症状と周辺症状について自己学習②	ポスター作成
13	シェア学習	ポスター内容の復習
14	MCIとその評価について：MoCA-J 演習	MoCA-J の評価練習
15	認知機能面を賦活させるレクリエーション：演習	レクリエーションの目的や効果について予習

使用教科書	「標準作業療法学　高齢期作業療法学　第4版 医学書院 」 「高齢者のための知的機能検査の手引き（株）ワールドプランニング 」
参考図書	「老年期の作業療法　第３版」三輪書店　　「高齢期における認知症のある人への作業療法」三輪書店 「標準作業療法学　身体機能作業療法学　第３版」医学書院
単位認定の方法及び基準	授業課題50% シェア学習態度および発表内容50%による総合評価。ルーブリックをもとに評価する。期限後の課題提出および課題未提出は減点する。【再試：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関、通所系および在宅リハビリテーションに携わってきた。その経験をもとに、複合疾患であるクライエントの特徴や作業療法士の関わりを紹介し興味・関心を抱いていただけるよう授業展開していく。

専門分野	高次脳機能作業治療学	昼間部 2年次	後期	2単位・15回	講義	野村哲朗

GIO（一般教育目標）
高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の介入原則を理解したうえで、クライアントに応じた作業療法評価計画および治療計画立案・実施ができるよう知識や技術を修得することを目的とする。

SBO（行動目標）
①各障害の症状に応じた介入原則について説明できる
②事例の評価結果からその臨床像を解釈できる
③グループで作業療法評価計画および治療計画・実施について話し合い、その内容を説明することができる

授業概要
講義、映像、演習を通じて、意識障害・注意・記憶障害・失語症・失行症・失認症・半側空間無視・社会適応障害・遂行障害などの特徴を把握したうえで、事例検討からクライアントに応じた作業療法の治療展開が考えられるよう授業を進めていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	社会的行動障害評価と治療	社会的行動障害の評価を復習
2	注意障害の評価	注意障害の評価を復習
3	注意障害の治療	予定している主題範囲内の教科書を読む
4	記憶障害の評価	記憶障害の評価を復習
5	記憶障害の治療	予定している主題範囲内の教科書を読む
6	失行の評価	失行の評価を復習
7	失行の治療	予定している主題範囲内の教科書を読む
8	失語の評価と治療	失語の評価を復習
9	失認の評価	失認の評価を復習
10	失認の治療	予定している主題範囲内の教科書を読む
11	半側空間無視の評価	半側空間無視の評価を復習
12	半側空間無視の治療	予定している主題範囲内の教科書を読む
13	半側空間無視の治療実技	予定している主題範囲内の教科書を読む
14	遂行機能障害の評価	遂行機能障害の評価を復習
15	遂行機能障害の治療・総論	SBO達成度の確認

使用教科書	「 標準作業療法学専門分野高次脳機能作業療法学第2版 」医学書院
参考図書	「 病気がみえる⑦、脳・神経第2版 」「 身体機能作業療法学第3版 」「 作業療法評価学第3版 」
単位認定の方法及び基準	筆記による定期試験70％と確認課題30％による総合評価にて判定する。なお、提出期限後のレポート提出および未提出の場合は減点とする。 【再試験：有】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関で身体障害・老年期領域のリハビリテーションに携わってきた。高次脳機能障害を持つ方の評価・治療に関して教科書に記載されている基本的な知識を学ぶとともに、事例を通じてイメージできるよう授業展開していく。

専門分野	生活適応学	昼間部 2年次	後期	2単位・15回	講義	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
障害を負ったことにより必要となった、義肢・装具・自助具・福祉用具の適応や導入時の社会資源の利用など、専門的知識について修得する。

SBO（行動目標）
①義肢・装具・自助具・福祉用具の選定に必要な基本的知識を習得する
②義肢・装具・福祉用具の選定に必要な社会資源を説明することが出来る
③疾患に合わせた義肢・装具・自助具・福祉用具の選定ができる
④スプリント作成を体験する

授業概要
実際に福祉用具を体験する・スプリントを作成する・国際福祉機器展で最新の福祉用具を見に行くなど、体験型学習を展開していく。また、義肢装具士と義肢義足ユーザーによる講義も予定している。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	福祉用具の定義　作業療法における福祉用具とは　選定導入の流れ	復：配布資料と教科書を復讐する
2	歩行補助具	復：配布資料と教科書を復讐する
3	ベッド・マットレスの選定　褥瘡について	復：配布資料と教科書を復讐する
4	リフト・コミュニケーションエイド	復：配布資料と教科書を復讐する
5	国際福祉機器展（機器展参加又はインターネット検索）	レポート作成　発表の準備
6	国際福祉機器展　レポート　発表	
7	義肢の基礎知識	復：配布資料と教科書を復讐する
8	装具の基礎知識	復：配布資料と教科書を復讐する
9	義肢装具の基礎知識	復：配布資料と教科書を復讐する
10	義肢装具士による講義①	復：配布資料を復讐する
11	義肢装具士による講義②（義肢ユーザーの体験談含む）	復：配布資料を復讐する
12	スプリントの基礎知識・作成①	予：配布資料で作成の手順の確認　汚れても良い服装
13	スプリント作成②	予：配布資料で作成の手順の確認　汚れても良い服装
14	スプリント作成③	予：配布資料で作成の手順の確認　汚れても良い服装
15	国家試験過去問　まとめ	復：配布資料と教科書を復讐する

使用教科書	『作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　日常生活活動学（ADL）』　『医歯薬出版　写真で見る基本スプリントの作り方』
参考図書	『福祉機器　選び方・使い方　副読本（基本動作編、自立支援編）』『義肢装具のチェックポイント』等
単位認定の方法及び基準	課題・発表30％（課題提出期限を過ぎた者は減点とする　発表に参加できなかった者は減点とする）　定期試験70％（本試験と同等範囲の再試験あり）の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は作業療法士として、医療・介護・在宅リハビリテーションにて、個々の特性に合わせたADLの治療に携わってきた。その経験を活かし、『作業療法士として生活を観る』視点を伝える授業を展開していく。

専門分野	身体機能作業治療学実習Ⅰ	昼間部 2年次	後期	1単位・15回	実習	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）
身体機能作業療法学の概念を学習し、中枢神経疾患、骨関節疾患、神経筋疾患などの臨床像を理解し、その生活機能障害に対して適切な作業療法が選択できる知識と技術を習得する。

SBO（行動目標）
① 作業療法プロセスを説明できる
② 各疾患に応じた身体機能作業療法のアプローチ方法が説明できる
③ 作業療法場面でのリスク管理を理解し説明できる

授業概要
講義で身体機能作業療法の考え方、アプローチ方法、リスク管理などを学習した後、実技場面において技術の一部を習得できるよう進める。また、臨床評価実習や3年次の身体機能作業治療学実習Ⅱにつながる基礎の授業になるため、評価から治療場面へと展開していく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	中枢神経疾患に対する作業療法	（予習）脳血管障害
2	中枢神経疾患に対する作業療法	（予習）脳血管障害
3	中枢神経疾患に対する作業療法	（予習）脳血管障害
4	骨関節疾患に対する作業療法	（予習）リウマチ
5	骨関節疾患に対する作業療法	（予習）骨折・加齢による疾患
6	神経変性疾患に対する作業療法	（予習）パーキンソン病
7	実技：身体の触り方・動かし方・声かけの仕方	（復習）実技練習
8	実技：基本的な関節可動域訓練	（復習）実技練習
9	実技：筋力増強訓練・感覚促通訓練	（復習）実技練習
10	実技：Activityを活用したアプローチ方法の紹介	Activityの特性を知る
11	演習：Activityを活用したアプローチ方法の検討	Activityの特性を考える
12	身体機能作業療法治療学の基本的知識①	配付資料を確認する
13	身体機能作業療法治療学の基本的知識②	配付資料を確認する
14	実技：関節可動域訓練・筋力増強訓練　復習	（復習）実技練習
15	実技：寝返り・起き上がり・移乗動作などの介入方法	（復習）実技練習

使用教科書	「 標準作業療法学　身体機能作業療法学 第4版　医学書院 」　「 リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術 メジカルビュー社 」
参考図書	「 作業療法評価学 第3版 」
単位認定の方法及び基準	定期試験70%、ルーブリックをもとに授業課題および実技態度30%による総合評価。【再試：有　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関、通所系および在宅リハビリテーションに携わってきた。その経験をもとに、複合疾患であるクライエントの特徴や作業療法士の関わりを紹介し興味・関心を抱いていただけるよう授業展開していく。

専門分野	精神機能作業治療学実習Ⅰ	昼間部 2年次	後期	1単位・15回	実習	土居大祐

GIO（一般教育目標）
精神科作業療法において重要な行動と態度について実践的に身に付ける

SBO（行動目標）
対象者に対し、配慮しながら次に掲げる行動を実施できる
⑴ 対人的な対応をしながら観察できる
⑵ 1対1の面接場面において相手の話しを引き出す事ができる
⑶ グループミーティングの進行

授業概要
皆の前で行動する、皆の様子を見る、メンバーの良い所を真似るといったグループの力を活用しながら、実践する事を通して身に付けていく

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	治療的行為を行うために自分を知る	復習
2	指示法演習	日常生活において練習
3	作業観察演習	日常生活において練習
4	活動による影響（自由度）	復習
5	相手の立場になる	復習
6	個人面接演習①　初回挨拶	イメージにおいて練習
7	個人面接演習②　作業療法の説明と了解	イメージにおいて練習
8	個人面接演習③　趣味や興味関心	イメージにおいて練習
9	個人面接演習④　まとめ	イメージにおいて練習
10	個人面接場面を観察して	第6回～9回の復習
11	作業場面演習①　作業観察について	イメージにおいて練習
12	作業場面演習②　 実践	イメージにおいて練習
13	作業場面を観察して	第11回、第12回の復習
14	グループワーク①　SSTについて	イメージにおいて練習
15	グループワーク②　SSTの実践	イメージにおいて練習

使用教科書	指定しない。必要に合わせて資料を配付する。
参考図書	精神科作業療法の治療技法については各授業の教科書を参照のこと
単位認定の方法及び基準	課題提出及び確認テスト，授業態度の総合評価（100%）再試験の取り扱い：有
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 精神科病院にて作業療法士として治療に携わった経験がある。精神科作業療法の実務経験に基づいて、精神科領域で活躍出来る作業療法士の養成の為の授業を展開していく。

専門分野	発達過程作業治療学実習Ⅰ	昼間部 2年次	後期	1単位・15回	実習	中込慶太

GIO（一般教育目標）
発達障害をもつ方に対する基礎知識・作業療法の評価法を実習し、治療への道筋を理解する。

SBO（行動目標）
①発達障害の分類・疾患像が理解出来る
②各疾患の疾患像が理解出来る
③発達障害をもつ疾患児に対する作業療法の評価の概要を理解し、実施することが出来る
④問題行動の要因について評価・改善策を提示することが出来る

授業概要
本授業では、主に発達障害野に関する治療について、講義と演習を通して学ぶ。
また症例検討を通して、対象者とその家族に対する理解も深めることを狙いとする。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	発達過程について	復：基礎医学の復習
2	反射（原始反射、姿勢反応）について	復：配布資料の復習
3	発達を評価する手段について	復：配布資料の復習
4	重症心身障害の評価	復：配布資料の復習
5	自閉症スペクトラムの評価	復：配布資料の復習
6	自閉症スペクトラムの評価	復：配布資料の復習
7	ADHDの評価	復：配布資料の復習
8	ADHDの評価	復：配布資料の復習
9	学習障害の評価	復：配布資料の復習
10	知的障害の評価	復：配布資料の復習
11	放課後等デイサービスについて	復：配布資料の復習
12	児童発達支援について	復：配布資料の復習
13	学校教育について	復：配布資料の復習
14	学校教育について	復：配布資料の復習
15	就労支援について	復：配布資料の復習

使用教科書	適宜、資料配布する。
参考図書	適宜、資料配布する。
単位認定の方法及び基準	課題10%　小テスト　20%　定期試験70%　の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 総合病院や通所・訪問系サービスに携わった経験がある。病院や施設での実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。
有	

専門分野	高齢期作業治療学実習Ⅰ	昼間部 2年次	後期	1単位・15回	実習	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
高齢期に多くみられる疾患に対する評価の実施、およびその結果を踏まえた場面ごとの作業療法目標の設定と治療計画について事例を交え学ぶことを目的とする

SBO（行動目標）
① 高齢期特有の基礎的な疾患を理解する
② 高齢者の生活環境・社会資源を理解する
③ 高齢期特有の基礎的な疾患に対する評価項目を選択し目標設定と治療計画について学ぶ
④ 障害高齢者の回復段階別の、生活に必要な作業療法とは何かを理解できる

授業概要
高齢者をとりまく社会的環境、高齢者に多くみられる疾患についての理解を深め、高齢者の個々の生活にそった作業療法とは何かを学んでいく。グループ学習を取り入れて行っていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	高齢期　作業療法の役割と機能	復：授業範囲の資料・教科書を読む
2	高齢期　急性期	復：授業範囲の資料・教科書を読む
3	高齢期　急性期事例	復：授業範囲の資料・教科書を読む
4	高齢期　回復期、回復期事例	復：授業範囲の資料・教科書を読む
5	高齢期　介護老人保健施設	復：授業範囲の資料・教科書を読む
6	高齢期　介護老人保健施設事例	復：授業範囲の資料・教科書を読む
7	高齢期　特養、サ高住、有料老人ホーム	復：授業範囲の資料・教科書を読む
8	高齢期　デイケア、デイサービス	復：授業範囲の資料・教科書を読む
9	高齢期　訪問リハビリ、小規模多機能	復：授業範囲の資料・教科書を読む
10	高齢期　通所リハビリ事例	復：授業範囲の資料・教科書を読む
11	高齢期　認知症サポーター養成講座受講	復：授業範囲の資料・教科書を読む
12	高齢期　認知症事例	復：授業範囲の資料・教科書を読む
13	高齢期　転倒	復：授業範囲の資料・教科書を読む
14	高齢期　終末期	復：授業範囲の資料・教科書を読む
15	これからの高齢期作業療法を考える	復：授業範囲の資料・教科書を読む

使用教科書	「標準作業療法学　高齢期作業療法学　第4版」医学書院
参考図書	「老年期の作業療法第３版」三輪書店、「高齢期における認知症のある人への作業療法」三輪書店、「標準作業療法学　身体機能作業療法学　第4版」医学書院
単位認定の方法及び基準	課題・発表20％（課題提出期限を過ぎた者は減点とする　発表に参加できなかった者は減点とする）　定期試験80％（本試験と同等範囲の再試験あり）の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は、入所/通所サービス・訪問リハビリテーションにおいて、高齢期の治療に携わった経験がある。更に、高齢者地域支援事業の活動を開始した。高齢期の特性に合わせた作業療法を考え実践できるよう授業を展開する。

専門分野	高次脳機能作業治療学実習Ⅰ	昼間部 2年次	後期	1単位・15回	実習	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）

高次脳機能障害を有する方に対して作業療法評価から治療までの一連の流れを理解する。治療介入方法を検討するためには評価が重要であるため、必要な評価・検査を選択し、その結果から統合と解釈を経験し理解を深める。

SBO（行動目標）

① 最適な評価・検査を選択し、作業療法評価計画を立案する
② 事例の評価結果からその臨床像を予測できる
③ グループで作業療法評価計画および治療計画について話し合い、その内容を説明できる
④ 各障害の症状に応じた介入原則について説明できる

授業概要

講義、映像（画像所見）、演習を通じて、意識障害・注意・記憶障害・失語症・失行症・失認症・半側空間無視・社会適応障害・遂行機能障害などの特徴を把握する。また、事例検討を通じてクライエントに応じた作業療法評価計画立案から治療展開が考えられるよう授業を進めていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	模擬症例像を作成する：イメージづくり①	各障害の症状や特徴について学習
2	模擬症例像を作成する：イメージづくり②	各障害の症状や特徴について学習
3	模擬症例像をまとめる：スライド作成	スライド作成
4	模擬症例を通じて作業療法評価計画を立案する①：評価の目的を考えスライド作成する	代表的な高次脳機能検査種類を復習する
5	模擬症例を通じて作業療法評価計画を立案する②：優先順位を考えスライド作成する	代表的な高次脳機能検査種類を復習する
6	発表①	発表準備・練習
7	発表②	発表準備・練習
8	作業療法評価結果の予測	過去の実習で出会った症例を思い出す
9	模擬症例像のまとめ①：スライド作成（OT評価結果）	評価バッテリーおよび採点記録の復習
10	模擬症例像のまとめ②：スライド作成（ICF）	ICFについて
11	模擬症例像のまとめ③：スライド作成（目標設定）	短期・長期目標を考える
12	模擬症例像のまとめ④：スライド作成（マインドマップ）	目標達成にむけて関連している要因を考える
13	演習：高次脳機能障害に関連した評価バッテリーの復習①	代表的な高次脳機能検査の手引きを復習する
14	演習：高次脳機能障害に関連した評価バッテリーの復習②	事例内容に関連する文献検索
15	脳画像について	前期「高次脳機能評価学」授業資料を確認する

使用教科書	「標準作業療法学専門分野 高次脳機能作業療法学第2版 医学書院」「病気がみえる⑦　脳・神経 メディックメディア」「リハに役立つ脳画像 メジカルビュー社」
参考図書	「身体機能作業療法学第4版」「作業療法評価学第3版」
単位認定の方法及び基準	授業態度30％および発表スライド・内容70％による総合評価。ルーブリックをもとに評価する。課題未提出および発表不参加は減点する。【再試：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関、通所系および在宅リハビリテーションに携わってきた。その中でも数多くの高次脳機能障害者と関り支援してきた。グループ演習から数多くの事例検討を行い、作業療法の考え方や介入および治療展開を紹介していく。

専門分野	生活適応学実習	昼間部 2年次	通年	2単位・30回	実習	野村哲朗

GIO（一般教育目標）
基本動作およびび各日常生活活動を分析し、評価できるようになるために評価方法に関連した知識・技術を習得する。疾患ごとの日常生活の特徴、動作分析を説明・技術を習得する。

SBO（行動目標）
1.基本動作・日常生活活動（ADL）・生活関連動作（IADL）の評価を行うことができる
2.各疾患の特性を理解し、それに合わせた評価を列挙することができる
3.各疾患の特性を理解し、それに合わせた生活の工夫をすることができる

授業概要
本授業では、日常生活動作とそれに関連する動作の分析・評価を行う。各疾患の特性に合わせた生活の工夫を講義・実技を交えて学習していく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	動作の観察・分析とは	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
2	寝返り・起き上がりの観察と分析　介助方法	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
3	座位姿勢とリーチ動作の観察と分析	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
4	立ち上がりの観察と分析　介助方法	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
5	実技確認	2，4授業内容の確認
6	ボディメカニクスと介助方法　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
7	ボディメカニクスと介助方法　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
8	ポジショニング	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
9	歩行の観察と分析・関連する福祉用具(機器)の活用方法　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
10	歩行の観察と分析・関連する福祉用具(機器)の活用方法　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
11	認知症、高齢者のADLの工夫　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
12	認知症、高齢者のADLの工夫　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
13	難病のADLの工夫　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
14	難病のADLの工夫　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
15	ADL評価のまとめI	予：教科書の確認　復：授業資料の復習

使用教科書	作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　日常生活活動学（ADL）
参考図書	適宜資料配布
単位認定の方法及び基準	筆記課題(小テスト含む) 50%と確認実技試験 50% の総合評価にて判定する。なお提出期限後の課題提出および未提出の場合は減点とする。【再試験：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関で身体障害・老年期領域のリハビリテーションに携わってきた。クライエントの生活をどのように見るのか、どのように支援するのかを一緒に学び、専門的な考察力を養っていくことが出来るよう授業展開していく。

専門分野	生活適応学実習	昼間部 2年次	通年	2単位・30回	実習	野村哲朗

GIO（一般教育目標）
基本動作及び各日常生活活動を分析し、評価できるようになるために評価方法に関連した知識・技術を習得する。疾患ごとの日常生活の特徴、動作分析を説明・技術を習得する。

SBO（行動目標）
1. 基本動作・日常生活活動（ADL）・生活関連動作（IADL）の評価を行うことができる
2. 各疾患の特性を理解し、それに合わせた評価を列挙することができる
3. 各疾患の特性を理解し、それに合わせた生活の工夫をすることができる

授業概要
本授業では、日常生活動作とそれに関連する動作の分析・評価を行う。各疾患の特性に合わせた生活の工夫を講義・実技を交えて学習していく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
16	ADLと機能的関節可動域	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
17	呼吸器疾患のADLの工夫　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
18	呼吸器疾患のADLの工夫　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
19	大腿骨頸部骨折者のADLの工夫　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
20	大腿骨頸部骨折者のADLの工夫　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
21	脊髄損傷者のADLの工夫　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
22	脊髄損傷者のADLの工夫　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
23	脳卒中者のADLの工夫　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
24	脳卒中者のADLの工夫　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
25	関節リウマチ者のADLの工夫　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
26	関節リウマチ者のADLの工夫　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
27	パーキンソン者のADLの工夫　I	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
28	パーキンソン者のADLの工夫　II	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
29	ADL評価のまとめII	予：教科書の確認　復：授業資料の復習
30	ADL評価のまとめIII	予：教科書の確認　復：授業資料の復習

使用教科書	作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　日常生活活動学（ADL）
参考図書	適宜資料配布
単位認定の方法及び基準	筆記課題(小テスト含む) 50%と確認実技試験 50% の総合評価にて判定する。なお提出期限後の課題提出および未提出の場合は減点とする。 【再試験：無】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関で身体障害・老年期領域のリハビリテーションに携わってきた。クライエントの生活をどのように見るのか、どのように支援するのかを一緒に学び、専門的な考察力を養っていくことが出来るよう授業展開していく。

専門分野	臨床技術演習Ⅰ	昼間部 2年次	後期	2単位・15回	演習	林一斗

GIO（一般教育目標）
臨床評価実習に行くための基本的な態度と技能を身につける

SBO（行動目標）
①医療に携わる者としての立ち振舞いや身だしなみ、リスクヘッジを身につける
②面接、評価測定時において対象者に対して配慮した上で、必要な情報を得るための態度をとることができる
③OSCE課題をもとに「コミュニケーション技法」「療法士面接」「MMT」「BRS」等の各課題における態度目標、技能目標を達成することとなる

授業概要
OSCEという学習技法を用い、各課題について説明、練習、達成度の確認という流れで実施していく
グループの力を用い、メンバー間で協力して練習、達成度の確認を行う

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	スタンダードプリコーション リスク管理	実技練習
2	コミュニケーション	実技練習
3	バイタル測定 三角巾	実技練習
4	車椅子操作	実技練習
5	移乗介助	実技練習
6	作業療法士面接	実技練習
7	ROM上肢	実技練習
8	ROM手指	実技練習
9	MMT上肢	実技練習
10	MMT下肢	実技練習
11	Brunnstrom Recovery Stage	実技練習
12	Brunnstrom Recovery Stage	実技練習
13	全体の復習 実技テスト練習	復習
14	実技テスト	実技練習
15	実技テスト	実技練習

使用教科書	PT/OTのための臨床技能とOSCE（コミュニケーションと介助・検査測定編）　金原出版株式会社
参考図書	評価方法の確認については評価に関する各授業で使用した教科書をおよび資料を参照すること
単位認定の方法及び基準	実技テストの結果で判定する。【再試験の取扱：無　ただし、評価が不十分だった者は、別日に行う実技練習に必ず参加すること。】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 回復期リハビリテーション病棟で実務経験がある講師が、臨床において典型的な評価、治療介入について演習を行う。また、実習指導者として臨床実習教育に関わってきた経験を活かし、臨床実習で必要な評価項目の理解を深める。

専門分野	臨床評価実習	昼間部 2年次	後期	4単位・20日	実習	金谷恵美　他・専任教員

GIO（一般教育目標）
作業療法士が実施する評価の流れや背景を理解する。
典型的な作業療法クライエントに対し作業療法プログラムを立案することができる。

SBO（行動目標）
《態度領域》指導者のもと、①報告・連絡・相談、確認ができる ②スタッフ、家族と良好な関係をつくる ③時間や規則を守る ④感染対策を理解し責任ある行動がとれる⑤疑問点を自ら見つけ解決しようと努力する《技術・思考領域》指導者のもと、①OTプログラム立案に必要な評価項目を列挙できる ②OT評価に必要な情報の一部を収集する ③基本的な評価技術を経験する④OTプログラム立案に必要な記録ができる⑤指導者の指示に従い職場内の整理・整頓、用具の準備・片づけを行う

授業概要
　臨床実習は、作業療法士が勤務するさまざまな現場に出向き、作業療法士が実際に行う作業療法の場面に参加（見学・模倣・実施）することにより、専門職として求められる知識・技術・態度を主体的に学ぶ過程である。評価実習では、作業療法の一般的な思考過程に基づきクライエントの全体像を把握する流れを理解できるよう導きたい。

授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
臨床評価実習は、 ①実習前評価（OSCE実技試験・課題提出・書類準備） ②臨床実習（実習施設・指導者が作成するスケジュールに基づく実習内容） ③実習後評価（実習後振り返り・実習報告会）により構成される。 ◆詳細は、別途配布する臨床実習の手引きに記載する。	

単位認定の方法及び基準	臨床実習の単位認定は、学内で実施する実習前・後評価および臨床実習指導者による評価により総合的に判断し学内にて決定する。 内訳は①実習前評価20%②臨床実習60%③実習後評価20%とする

講　義　概　要

作業療法学科昼間部　第３学年

2024

目　次

作業療法学科昼間部　第３学年

研究法（金谷　他・専任教員）…… 129
身体機能作業治療学実習Ⅱ（正村）…… 130
精神機能作業治療学実習Ⅱ（並木）…… 131
発達過程作業治療学実習Ⅱ（中込）…… 132
高齢期作業治療学実習Ⅱ（金谷）…… 133
高次脳機能作業治療学実習Ⅱ（眞々部）…… 134
臨床技術演習Ⅱ（林）…… 135
作業療法治療学演習（正村・専任教員）…… 136
地域作業療法学Ⅰ（浦田）…… 137
地域作業療法学Ⅱ（野村）…… 138
総合臨床実習Ⅰ（金谷　他・専任教員）…… 139
総合臨床実習Ⅱ（金谷　他・専任教員）…… 140
総合統合演習Ⅱ（正村・林）…… 141

基礎分野	研究法	昼間部3年次	後期	2単位・15回	講義	金谷恵美　他・専任教員

GIO（一般教育目標）
作業療法実践の質的向上を図るうえで欠かせない事例研究の手順を理解する。

SBO（行動目標）
①臨床実習等で実際に体験した作業療法内容を振り返り、さらに解決したい課題や疑問を列挙できる。
②作業療法の成果(結果)を裏付ける先行研究を検索し、事例との関連性を説明することができる。
③作業療法士協会が公表している「事例報告書作成の手引き」に基づき報告書を作成することができる。

授業概要
これまでの臨床実習経験を振り返り、今後の臨床活動に活かすべき知見を明らかにするとともに作業療法研究活動の必要性を認識できるよう課題を設定する。学生1人（もしくは1グループ）につき1名の専任教員を配置し指導を進める。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	研究をはじめるにあたって	予：研究とは何か
2	研究の種類とデザイン	復：指定教科書をもとに授業で実施した内容
3	統計解析	復：指定教科書をもとに授業で実施した内容
4	学会発表	復：指定教科書をもとに授業で実施した内容
5	事例研究：担当教員の指示に従い学習を進めていく	
6	事例研究	
7	事例研究	
8	事例研究	
9	事例研究	
10	事例研究	
11	事例研究	
12	事例研究	
13	事例研究	
14	事例研究	
15	事例研究	

使用教科書	「 作業療法研究法　医歯薬出版 」
参考図書	適宜紹介する。
単位認定の方法及び基準	文献検索、文献抄読をもとに事例報告書を作成し、成果を各教員共通のルーブリックをもとに判定する。なお、研究法概要に関する講義に参加しなかった者は減点する。再試はないが、再提出を課す場合がある。
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 各領域における研究経験を有する教員が担当する。
有	

専門分野	身体機能作業治療学実習Ⅱ	昼間部 3年次	前期	1単位・15回	実習	正村好臣

GIO（一般教育目標）
身体障害領域の主の対象疾患について、基礎科目や国家試験問題レベルを通して知識と技術を習得する。

SBO（行動目標）
1．各疾患の病態を理解した上で、評価・治療の視点が説明できるようになる。
2．各疾患の障害像から適切は治療の考え方が説明できるようになる。

授業概要
身体障害領域の主の対象疾患である運動器疾患・呼吸器疾患・循環器疾患などに対する作業療法について習得する。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション（自己学習・シェア学習の方法） ①自己学習	復習：基礎科目の復習
2	①解剖学・生理学・運動学の自己学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
3	①解剖学・生理学・運動学のシェア学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
4	①解剖学・生理学・運動学のシェア学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
5	②解剖学・生理学・運動学の自己学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
6	②解剖学・生理学・運動学の自己学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
7	②解剖学・生理学・運動学のシェア学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
8	②解剖学・生理学・運動学のシェア学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
9	③解剖学・生理学・運動学の自己学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
10	③解剖学・生理学・運動学の自己学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
11	③解剖学・生理学・運動学のシェア学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
12	③解剖学・生理学・運動学のシェア学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
13	④解剖学・生理学・運動学の自己学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
14	①解剖学・生理学・運動学のペア学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習
15	①解剖学・生理学・運動学のペア学習	予：基礎科目の確認　復習：授業の復習

使用教科書	適宜、資料配付する。
参考図書	適宜、資料配布付する。
単位認定の方法及び基準	定期試験70％、課題30％の総合評価 【再試験の取り扱い：有り】　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	精神機能作業治療学実習Ⅱ	昼間部 3年次	前期	1単位・15回	実習	並木秀樹

GIO（一般教育目標）
①精神疾患・精神障害の特徴に合わせ、自ら実現可能で有効な作業療法を計画できる力を身につける
②精神疾患・精神障害の回復段階・時期に合わせ、自ら実現可能で有効な作業療法を経過できる力を身につける

SBO（行動目標）
①各精神疾患・精神障害の特徴を理解することができる
②各精神疾患・精神障害において作業療法で考慮するべき事項を理解することができる
③症例の目的・目標に合わせた課題活動を自らの特徴を考慮して計画することができる
④精神疾患・精神障害の一般的な特徴と、症例（その人）特有の特徴を区別し、国家試験レベルの問題を解くことができる

授業概要
精神医学、精神機能に対する評価、治療の授業が終了していることを前提として、より具体的なイメージを得、対応につなげられるようペーパーペイシェントを参考に、自ら思考する時間を大切にした授業となるよう計画している。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	概要説明、作業療法士自身の影響～受容とは何か～	授業内容をふりかえる課題
2	気分（感情）障害	授業内容をふりかえる課題
3	うつ病症例	授業内容をふりかえる課題
4	神経症圏　摂食障害	授業内容をふりかえる課題
5	転換性障害症例	授業内容をふりかえる課題
6	パーソナリティ障害	授業内容をふりかえる課題
7	パーソナリティ障害症例	授業内容をふりかえる課題
8	学習理論・認知行動療法	授業内容をふりかえる課題
9	物質関連障害・物質誘発性障害	授業内容をふりかえる課題
10	アルコール依存症症例　症例報告のまとめ方	授業内容をふりかえる課題
11	器質性精神障害　老年期精神障害	授業内容をふりかえる課題
12	血管性認知症症例　バリデーション	授業内容をふりかえる課題
13	統合失調症	復習
14	統合失調症症例　治療プログラム	授業内容をふりかえる課題
15	精神科領域での実習　国家試験での精神科作業療法	復習

使用教科書	標準作業療法学「精神機能作業療法学」医学書院
参考図書	精神医学および評価、治療についての教科書と資料を必要に応じて随時確認してください
単位認定の方法及び基準	定期試験８０％、授業内課題および提出課題ならびに授業態度と出席２０％（授業内課題および提出課題ならびに授業態度と出席における基準はクラスルームに掲示する）　総合点が60点に満たない場合は再試験とす
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 精神科領域および高齢者領域での臨床経験を踏まえ、また過去の国家試験の傾向を分析した結果を参考に、精神科領域を中心とする精神機能に対する作業療法についてのイメージを持ってもらえるよう工夫していく

専門分野	発達過程作業治療学実習Ⅱ	昼間部 3年次	前期	1単位・15回	実習	中込慶太

GIO（一般教育目標）
発達障害をもつ方に対する基礎知識・作業療法の評価法を実習し、治療計画及び治療の実践が出来る。

SBO（行動目標）
①発達分野の検査法を実習し、目的・内容を理解する。
②問題行動について理解し、対処法の概要を示すことが出来る。
③発達障害の評価から治療への流れを理解する。

授業概要
本授業では、主に脳性麻痺、知的障害、発達障害、分野に関する治療について、講義と演習・実技を通して介入方法を学ぶ。また症例検討を通して、対象者とその家族に対する理解も深めることを狙いとする。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	発達過程について	復：基礎医学の復習
2	反射、平衡反応について	復：配布資料の復習
3	感覚について	復：配布資料の復習
4	感覚統合について	復：配布資料の復習
5	脳性麻痺の介入方法	復：配布資料の復習
6	筋ジストロフィーの介入方法	復：配布資料の復習
7	二分脊椎の介入方法	復：配布資料の復習
8	DOWN症の介入方法	復：配布資料の復習
9	てんかんの介入方法	復：配布資料の復習
10	自閉症スペクトラムの介入方法	復：配布資料の復習
11	ADHDの介入方法	復：配布資料の復習
12	学習障害の介入方法	復：配布資料の復習
13	知的障害の介入方法	復：配布資料の復習
14	放課後等デイサービスでの支援方法	復：配布資料の復習
15	児童発達支援での支援方法	復：配布資料の復習

使用教科書	適宜、資料配布する。
参考図書	適宜、資料配布する。
単位認定の方法及び基準	課題10%　小テスト　20%　定期試験70%　の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 総合病院や通所・訪問系サービスに携わった経験がある。病院や施設での実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	高齢期作業治療学実習Ⅱ	昼間部 3年次	前期	1単位・15回	実習	金谷恵美

GIO（一般教育目標）
障害をもって地域で生活するということ、その地域での制度・作業療法士の役割について理解し適切な援助・指導方法が実施できるようになる。

SBO（行動目標）
①虚弱・障害者高齢者に対する作業療法の特徴と介入方法を理解し、模擬的に実践できる。 ②廃用症候群の高齢者に対する作業療法の特徴と介入方法を理解し、模擬的に実践できる。 ③認知症高齢者を理解し、作業療法の特徴と介入方法を理解し、模擬的に実践できる。 ④バイタルチェックや喀痰吸引など、臨床において必要となる基本的な医療手技を習得する。 ⑤事例に基づいた効果的な作業療法介入を検討し、より実践的な知識と技術を身につけ実践できる。

授業概要
高齢期に多く見られる疾患に対する治療の模擬実践ができることを目的とする。具体的には、虚弱高齢者、廃用症候群、認知症等の作業療法の内容を理解し、模擬的に実践できる。バイタルチェックや喀痰吸引など、臨床において必要となる基本的な医療手技を習得する。グループワークを主体で行う。時間・内容について変更することがある。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	高齢者作業療法における事例検討①【目的・介入方法・支援など】事例検討グループワーク	配布資料を確認する。
2	高齢者作業療法における事例検討①【目的・介入方法・支援など】事例検討グループワーク	配布資料を確認する。
3	高齢者作業療法における事例検討②【目的・介入方法・支援など】事例検討グループワーク	配布資料を確認する。
4	高齢者作業療法における事例検討②【目的・介入方法・支援など】事例検討グループワーク	配布資料を確認する。
5	高齢者作業療法における集団への介入①【目的・介入方法・支援など動的作業】事例検討グループワーク	配布資料を確認する。
6	高齢者作業療法における集団への介入①【目的・介入方法・支援など動的作業】事例検討グループワーク	配布資料を確認する。
7	高齢者作業療法における集団への介入②【目的・介入方法・支援など動的作業】事例検討グループワーク	配布資料を確認する。
8	高齢者作業療法における集団への介入②【目的・介入方法・支援など動的作業】事例検討グループワーク	配布資料を確認する。
9	喀痰吸引基礎知識について	配布資料を確認する。
10	同上	配布資料を確認する。
11	バイタルチェックや喀痰吸引について基本的知識と医療手技	配布資料を確認する。
12	同上	配布資料を確認する。
13	高齢者作業療法における集団への介入②【目的・介入方法・支援など動的作業】事例検討グループワーク・グループ発表	グループ発表の準備をする。
14	高齢者作業療法における集団への介入②【目的・介入方法・支援など動的作業】事例検討グループワーク・グループ発表	グループ発表の準備をする。
15	高齢者作業療法における集団への介入②【目的・介入方法・支援など動的作業】事例検討グループワーク・グループ発表	

使用教科書	随時配布
参考図書	医歯薬出版「認知症の作業療法（第2版）」、文光堂「考える作業療法　活動能障害に対して」
単位認定の方法及び基準	グループワーク発表50%、レポートと振り返りシート50%の総合判定。グループワーク発表に参加しなかったものは50点の点数配分を与えない。提出期限後のレポート提出や未提出は減点とする。再試験取扱：無
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法として、医療機関や施設におけるリハビリテーションに携わってきました。多くのクライエントと関り、支援してきた経験談を交え、特徴を理解してもらえるように授業展開していく。

専門分野	高次脳機能作業治療学実習Ⅱ	昼間部 3年次	前期	1単位・15回	実習	眞々部仁美

GIO（一般教育目標）

高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の介入原則を理解したうえで、クライエントの個別性に応じた作業療法評価計画および治療計画立案・実施ができるよう知識や技術を習得する。

SBO（行動目標）

① 各障害の症状に応じた介入原則について説明できる
② 事例の評価結果からその臨床像を解釈し説明できる
③ グループで作業療法評価計画および治療計画について検討し、治療展開を調べ説明できる
④ 脳画像の見方ができる

授業概要

2年次の高次脳機能作業治療学で学習した基本的な治療介入原則をもとに、事例からクライエントの個別性に応じた作業療法展開を考えていく。その際に文献検索および抄読を取り入れ、最新の治療介入に関心を高められるよう導く。脳画像は2年次の復習から開始し、さらに読影ができるようアクティブラーニングを取り入れていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	事例を通じて、ICF・目標設定・マインドマップを作成する①	スライド作成
2	事例を通じて、ICF・目標設定・マインドマップを作成する②	スライド作成
3	割り当てられた評価バッテリーの概要をまとめスライド作成する	（予習）過去の資料を確認
4	事例を通じて治療展開を調べる①	（予習）教科書に載っている関連範囲を熟読する
5	事例を通じて治療展開を調べる②	（予習）文献検索
6	事例を通じて治療展開を深め発表資料を作成する①	（予復習）文献検索・スライド作成
7	事例を通じて治療展開を深め発表資料を作成する②	（予習）発表原稿作成
8	グループ発表①	（復習）発表内容の確認
9	グループ発表②	（復習）発表内容の確認
10	グループ発表③	（復習）発表内容の確認
11	自動車運転支援について	（予習）SDSAについて
12	演習：高次脳機能障害に関する評価バッテリーの復習	過去の資料を確認する
13	脳画像①	（復習）脳画像に関する資料および書籍から不足している内容を補う
14	脳画像②	（復習）脳画像に関する資料および書籍から不足している内容を補う
15	脳画像③	（復習）脳画像に関する資料および書籍から不足している内容を補う

使用教科書	「 標準作業療法学専門分野　高次脳機能作業療法学第2版 医学書院 」「 リハに役立つ脳画像 改訂第2版 メジカルビュー社 」
参考図書	「 病気がみえる⑦、脳・神経第2版 」「 身体機能作業療法学第4版 」「 作業療法評価学第3版 」
単位認定の方法及び基準	定期テスト70%、ルーブリックをもとに授業課題および発表30%による総合評価 【再試：有　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関、通所系および在宅リハビリテーションに携わってきた。その中でも数多くの高次脳機能障害者と関り支援してきた。グループ演習から数多くの事例検討を行い、作業療法の考え方や介入および治療展開を紹介していく。

専門分野	臨床技術演習Ⅱ	昼間部3年次	前期	2単位・15回	演習	林一斗

GIO（一般教育目標）
臨床実習で役立つ介入技能を学習、習得する

SBO（行動目標）
①典型的な症例を想定した治療介入ができる
②各種治療の一連の流れをOSCEなどを用いて実施することができる。
③治療の実施に際しては、理論的根拠を明らかにしていくことができる。

授業概要
OSCEという学習技法を用い、説明、練習、達成度確認という流れで行っていく。
臨床実習の全体像を示した上で、臨床実習にでるための準備性を高める。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	関節可動域運動	解剖学・運動学等の復習を行う
2	筋力増強運動	解剖学・運動学等の復習を行う
3	リラクゼーション	解剖学・運動学等の復習を行う
4	ポジショニング	解剖学・運動学等の復習を行う
5	1～4の復習	解剖学・運動学等の復習を行う
6	起き上がり分析・介入	基本動作等の復習を行う
7	起立、着座分析・介入	基本動作等の復習を行う
8	移乗分析・介入	基本動作等の復習を行う
9	5～8の復習	基本動作等の復習を行う
10	車椅子駆動分析・介入	日常生活動作等の復習を行う
11	食事動作分析・介入	日常生活動作等の復習を行う
12	更衣動作分析・介入	日常生活動作等の復習を行う
13	全体の復習 実技テスト練習	1～12の復習を行う
14	実技テスト	実技テスト練習
15	実技テスト	実技テスト練習

使用教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE　機能障害・能力低下への介入編　金原出版
参考図書	必要に応じて資料を配布する
単位認定の方法及び基準	実技試験の結果にて判定する。【再試験の取扱：無　ただし評価が不十分だった者は別日に実技練習の機会を設け、それに必ず参加すること。】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 回復期リハビリテーション病棟で実務経験がある講師が、クライアントに応じた評価・治療項目の選択や知識・技術について演習を行う。実務経験と臨床実習指導者としての経験を活かして実習に役立つ技術を身に付ける。

専門分野	作業療法治療学演習	昼間部 3年次	前期	2単位・15回	演習	正村好臣・専任教員

GIO（一般教育目標）
総合臨床実習に向け、診療参加型臨床実習のながれを理解し、クライエントや指導者と良好な関係のもと実習を進めるために必要な態度を習得する。

SBO（行動目標）
①作業療法場面において実習生が求められる基本的態度を理解し模擬的に実施できる。
②作業療法場面において実習生が求められるリスク管理および感染対策について理解し模擬的に実施できる。
③作業療法場面において実習生が求められる基本的技術について理解し模擬的に実施できる。
④診療参加型実習で求められる報告書の内容を把握し模擬的に実施できる。

授業概要
診療参加型実習において実習生が求められる基本的態度、知識、技術の習得を目指す。対象者に負担をかけないようスムーズな実施を目指す。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	実習形態と実習で求められていること	（予習）シラバスの内容を確認
2	バイタル（脈拍と血圧の測定）練習	（復習）
3	感覚（触覚と受動運動覚）　練習	（復習）
4	感覚（触覚と受動運動覚）　練習	（復習）
5	ROM・MMT（上肢、手指、下肢）　練習	（復習）
6	ROM・MMT（上肢、手指、下肢）　練習	（復習）
7	当事者実習　昼夜合同	当事者実習
8	当事者実習　昼夜合同	当事者実習
9	当事者実習で経験した内容を学生同士でフィードバック（実技）	実技練習
10	グループ内にて当事者実習の内容共有	（準備）
11	グループ内にて当事者実習の内容共有	当事者実習のまとめ作業
12	個別発表資料作成 （授業時間内に担当教員に添削依頼可）	当事者実習のまとめ作業
13	個別発表資料作成 （授業時間内に担当教員に添削依頼可）	当事者実習のまとめ作業
14	個別発表 （治療について文献検索し発表）	発表
15	個別発表	発表

使用教科書	図解作業療法技術ガイド第４版（光文堂）　PT/OTのための臨床技術とOSCE（コミュニケーションと介助・検査測定編）第2版補訂版（金原出版株式会社）
参考図書	適宜紹介する 。２年次まで使用したテキストをいつでも使用できるよう準備しておくこと。
単位認定の方法及び基準	実技課題60％および課題発表40％により総合的に判定する。 【再試験の取り扱い：無し】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。

専門分野	地域作業療法学Ⅰ	昼間部 3年次	前期	2単位・15回	講義	浦田祐美子

GIO（一般教育目標）
地域における障害者の生活環境全般についての理解を深め、支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題解決能力を培うことを目的とする。

SBO（行動目標）
①地域医療・介護保険制度について述べることができ、それらの制度を活用した在宅生活を考えることが出来る　②社会資源について列挙し、それぞれの役割について説明することができる　③身体機能に合わせて住環境調整の支援・指導のポイントを説明することができる　④地域作業療法について事例を通して理解を深める　⑤救急救命に関する知識と技術を学ぶ

授業概要
日常生活に困難を抱えている方の支援していくために必要な知識を学ぶ。住環境整備、地域社会の環境について事例を通し理解を深めていく。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	地域作業療法定義　地域作業療法の役割	復：配布プリントの復習
2	社会生活支援・連携・協働	復：配布プリントの復習
3	住宅改修①	復：配布プリントの復習
4	住宅改修②	復：配布プリントの復習
5	住宅改修③	自宅の間取り図作成
6	住宅改修④	予：発表の準備
7	救急救命講習①	動ける服装
8	救命救急講習②	動ける服装
9	地域作業療法　事例①	復：配布プリントの復習
10	地域作業療法　事例②	復：配布プリントの復習
11	地域作業療法　事例③	復：配布プリントの復習
12	障害を持っている事例に対して、在宅生活をマネジメントする①	課題の作成
13	障害を持っている事例に対して、在宅生活をマネジメントする②	課題の作成
14	障害を持っている事例に対して、在宅生活をマネジメントする③	課題の作成
15	発表　国家試験過去問題　まとめ	予：発表準備

使用教科書	昨年使用（購入）した『PTOTビジュアルテキスト　地域リハビリテーション学　第2版』と、他必要資料は配布します。
参考図書	『地域リハビリテーション論Ver7』『地域包括リハビリテーション実践マニュアル』『国際福祉機器展　福祉機器選び方・使い方』等
単位認定の方法及び基準	課題・発表30%（課題提出期限を過ぎた者は減点とする　発表に参加できなかった者は減点とする）　定期試験70%（本試験と同等範囲の再試験あり）の総合評価
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 担当教員は、入所/通所サービス・訪問リハビリテーションにおいて、治療に携わった経験がある。更に、地域支援事業の高齢者フレイル予防のトレーナーとして活動を行っている。地域で活躍できる作業療法士の育成のための授業を展開する。

専門分野	地域作業療法学Ⅱ	昼間部 3年次	前期	2単位・15回	講義	野村哲朗

GIO（一般教育目標）
人にとって働くとはどのようなことか、障害によって働くことに対しどのような支援が必要かを知る

SBO（行動目標）
①人にとって働くことの意義を理解し、それに対する作業療法士の役割を説明できるようになる
②「障害者の雇用の促進に関する法律」「障害者総合支援法」の内容を説明できるようになる
③各障害による支援について説明できるようになる

授業概要
働くことは人にとって生きること。就労に向けての支援は現在、国が力を入れている施策でもある。就労を支援するためには多くの職種がそれぞれの力を発揮しながら協力していく必要があり、作業療法士の役割や評価方法、支援方法、社会資源、制度や法律を知る必要がある。また、支援の対象者のイメージを持つことも重要である。講義を通して働くことの支援方法の知識を学ぶ。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	人が働くということ	授業内容をふりかえる課題
2	職業リハビリテーション活動の概念	授業内容をふりかえる課題
3	就労に関する理論	授業内容をふりかえる課題
4	障害者の働き方と雇用の現状	授業内容をふりかえる課題
5	障害者の就労制度	授業内容をふりかえる課題
6	就業準備、就業開拓、就業後	授業内容をふりかえる課題
7	就労支援における作業療法の役割	授業内容をふりかえる課題
8	連携	授業内容をふりかえる課題
9	評価過程	授業内容をふりかえる課題
10	治療過程	授業内容をふりかえる課題
11	精神障害（統合失調症）に対する就労支援	授業内容をふりかえる課題
12	精神障害（うつ）に対する就労支援	授業内容をふりかえる課題
13	身体障害に対する就労支援	授業内容をふりかえる課題
14	高次脳機能障害に対する就労支援	授業内容をふりかえる課題
15	知的障害に対する就労支援	授業内容をふりかえる課題

使用教科書	「就労支援の作業療法ー基礎から臨床実践までー　医歯薬出版
参考図書	「ゼロから始める就労支援ガイドブック 」メジカルビュー社 各障害の理解には疾患、病理その他の授業で使用した教科書を参考にするとよい
単位認定の方法及び基準	筆記による定期試験80%、授業内課題および提出課題20%の総合評価にて判定する。なお提出期限後の課題提出および未提出の場合は減点とする。 【再試験：有】
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として、医療機関で身体障害・老年期領域のリハビリテーションに携わってきた。授業を通して障害を抱えながら働くこと、生活する姿を想像し、有効な支援につなげられる力を身につけられるよう授業展開していく。

専門分野	総合臨床実習Ⅰ	昼間部3年次	通年	8単位・40日	実習	金谷恵美　他・専任教員

GIO（一般教育目標）
作業療法士が実施する評価・介入の流れや背景を理解する。
指導者のもと典型的な作業療法クライエントに対する作業療法プログラムを立案できる。
立案した作業療法プログラムの一部を指導者のもと実施することができる。

SBO（行動目標）
《態度領域》指導者のもと、①報告・連絡・相談、確認ができる ②スタッフ、家族と良好な関係をつくる ③時間や規則を守る ④感染対策を理解し責任ある行動がとれる⑤疑問点を自ら見つけ解決しようと努力する《技術・思考領域》指導者のもと、①OTプログラム立案に必要な評価項目を列挙できる ②OT評価に必要な情報の一部を収集する ③基本的な評価技術を経験する④OTプログラム立案に必要な記録ができる⑤指導者の指示に従い職場内の整理・整頓、用具の準備・片づけを行う

授業概要
臨床実習は、作業療法士が勤務するさまざまな現場に出向き、作業療法士が実際に行う作業療法の場面に参加（見学・模倣・実施）することにより、専門職として求められる知識・技術・態度を主体的に学ぶ過程である。総合臨床実習では、作業療法プログラムの立案や再評価（プログラムの修正、リスク管理等）の実際に触れ、基本的な介入技術の一部を習得できるよう導きたい

授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
総合臨床実習は、 ①実習前評価（OSCE実技試験・課題提出・書類準備） ②臨床実習（実習施設・指導者が作成するスケジュールに基づく実習内容） ③実習後評価（実習後振り返り・実習報告会）により構成される。 ◆詳細は、別途配布する臨床実習の手引きに記載する。	

単位認定の方法及び基準	臨床実習の単位認定は、学内で実施する実習前・後評価および臨床実習指導者による評価により総合的に判断し学内にて決定する。内訳は①実習前評価20%②臨床実習60%③実習後評価20%とする

専門分野	総合臨床実習Ⅱ	昼間部 3年次	後期	8単位・40日	実習	金谷恵美　他・専任教員

GIO（一般教育目標）
作業療法士が実施する評価・介入の流れや背景を理解する。
指導者のもと典型的な作業療法クライエントに対する作業療法プログラムを立案できる。
立案した作業療法プログラムの一部を指導者のもと実施することができる。

SBO（行動目標）
《態度領域》指導者のもと、①報告・連絡・相談、確認ができる ②スタッフ、家族と良好な関係をつくる ③時間や規則を守る ④感染対策を理解し責任ある行動がとれる⑤疑問点を自ら見つけ解決しようと努力する《技術・思考領域》指導者のもと、①OTプログラム立案に必要な評価項目を列挙できる ②OT評価に必要な情報の一部を収集する ③基本的な評価技術を経験する④OTプログラム立案に必要な記録ができる⑤指導者の指示に従い職場内の整理・整頓、用具の準備・片づけを行う

授業概要
臨床実習は、作業療法士が勤務するさまざまな現場に出向き、作業療法士が実際に行う作業療法の場面に参加（見学・模倣・実施）することにより、専門職として求められる知識・技術・態度を主体的に学ぶ過程である。総合臨床実習では、作業療法プログラムの立案や再評価（プログラムの修正、リスク管理等）の実際に触れ、基本的な介入技術の一部を習得できるよう導きたい

授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
総合臨床実習は、 ①実習前評価(課題提出・書類準備) ②臨床実習（実習施設・指導者が作成するスケジュールに基づく実習内容） ③実習後評価（実習後振り返り・実習報告会）により構成される。 ◆詳細は、別途配布する臨床実習の手引きに記載する。	

単位認定の方法及び基準	臨床実習の単位認定は、学内で実施する実習前・後評価および臨床実習指導者による評価により、総合的に判断し学内にて決定する。内訳は①実習前評価20%②臨床実習60%③実習後評価20%とする

専門分野	総合統合演習 II	昼間部 3年次	後期	8単位・60回	演習	正村好臣・林一斗

GIO（一般教育目標）
作業療法士に必要な専門分野とこれまで学んだ基礎医学・臨床医学の知識を復習し、習得させる。

SBO（行動目標）
1．自己学習とグループ学習の方法を理解し、実行することができる。
2．基礎医学・臨床医学の知識を復習し、自己の苦手分野を克服することができる。
3．作業療法の専門分野を復習し、臨床実習で学んだ知識と統合し、修得することができる。

授業概要
セミナーでは、自己学習とグループ学習の方法を理解していく。また、演習を通してグループ間で理解度を確認していく。学生自らの行動学習によりイメージを持って理解できるようにする。PC、タブレットを使用して授業を行う。

回	授業計画又は学習の主題	授業時間外の予習・復習等
1	オリエンテーション	特になし
2	3日間セミナー	課題の復習
3	3日間セミナー	課題の復習
4	3日間セミナー	課題の復習
5	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
6	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
7	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
8	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
9	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
10	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
11	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
12	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
13	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
14	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習
15	作業療法専門分野　自己学習・グループ学習	課題の復習

使用教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2025　4冊
参考図書	①　基礎運動学　第６版補訂　中村隆一他著、医歯薬出版　②「町田志樹の聴いて覚える起始停止」 ③「生理学第3版」（医歯薬出版）、「標準理学療法学・作業療法学」（専門基礎分野）、「生理学」（医学書院）
単位認定の方法及び基準	定期試験 100% 評価 【再試験の取り扱い：有り】　定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 有	**どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか** 作業療法士として身体障害領域に携わり、病院や整形クリニックでの実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。